

なごみの郷の理念

理 念

なごみの郷は、「地域で普通の生活をしつつ、未来に向かって希望の道を歩むこと」を大きな目標とします。

その目標を達成するために、なごみの郷はその名の由来通り「人の輪と心が和む場」を大切にし、「一人一人が夢と希望を持って生きること」を目指して、医療・行政機関等との緊密な連携のもとに、「絶えず創意工夫を積み重ね、最善を尽くすこと」を信条とします。

基本方針

- 1 人の輪、こころの和を大切にしたサービスに努めます
- 2 一人一人の権利と尊厳を守り、個人の自律及び自立を尊重することに努めます
- 3 利用者、家族、ボランティア、地域住民と一体となって推し進めます

行 動 方 針

私たちは、「社会参加」を支援の中心に行動します

私たちは、「ホスピタリティの精神」を大切に行動します

私たちは、当事者の「主体性」と「対話と共感」を持って行動します

私たちは、「学び」と「実践」の両輪で行動します

(この行動方針は令和4年8月に策定しました)

なごみの郷主要施設



なごみの郷本館



グループホームしらさぎ



地域活動センターくろゆり



能美地域活動センターはまかぜ



能美地域活動センターはまかぜ
山口分場

新理事長としてのご挨拶

荒田稔六代目理事長（平成24年8月—令和6年3月）の後を継ぎまして、令和6年4月に七代目理事長として就任しました北岡和代です。関係各位の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。この紙面を借りまして、私の自己紹介をさせていただきます：私はこの3月まで石川県にありますが看護系の4つの大学（石川県立看護大学、金沢医科大学看護学部、金沢大学医薬保健研究域保健学系、公立小松大学保健医療学部）において、精神保健看護学を専門とする教育及び研究に携わっていました。その間、金沢医科大学から博士（医学）の学位を授与されています。それ以前には、精神科の病棟に勤める臨床の看護師としての経験もあります。ちなみに、私の両親はともに小松市（父は矢田、母は二ツ梨）の出身です。



さて、次に、なごみの郷との繋がりについてお話させていただきます。なごみの郷との出会いは、「社会福祉法人なごみの郷」設立発起人会が正式に発足する（平成10年）2年前のことになります。精神に障がいがあっても、地域で普通の生活をするのが当たり前ではないか、そのために、応援していこう・支援していこう・共に歩いていこうという大きな機運が生まれていました。その渦中におられる人たちの何かを達成しようとする輝いた姿がとてもまぶしく、自分もその輪に入りたいという情熱が生まれました。残念ながら、そのような情熱はときに熱しやすく・冷めやすいものです。ところが、障がいを抱えながらも生き続けようと苦勞されている当事者の方との触れ合いを途切れることなく続けている中で、私の中の情熱は決して衰えることはありませんでした。そして、28年間の思いの着地点とし、理事長就任となりました。

これからがいよいよです。思いはあっても実際の行動に繋がらなければ、それは他者や社会を変える力にはなりません。なごみの郷の職員をはじめ、関わっていただいているメンボラ ToMo の会、くろゆり会、地域住民の方々、そして行政や関係機関の方々、何よりも利用者の皆さんと心を通わせながら、理事長としての責任を果たしていく所存であります。なごみの郷の今後の発展のために、皆さん、お力をお貸しください。どうぞよろしくお願いいたします。

これからがいよいよです。思いはあっても実際の行動に繋がらなければ、それは他者や社会を変える力にはなりません。なごみの郷の職員をはじめ、関わっていただいているメンボラ ToMo の会、くろゆり会、地域住民の方々、そして行政や関係機関の方々、何よりも利用者の皆さんと心を通わせながら、理事長としての責任を果たしていく所存であります。なごみの郷の今後の発展のために、皆さん、お力をお貸しください。どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年4月

社会福祉法人なごみの郷

理事長 北岡 和代

目 次

I	法人の概要	1
1	法人の沿革	1
2	施設の規模	2
3	組織・機構	3
4	関係団体の動き	3
5	職員体制	5
6	令和5年度 特記事項	6
II	支援部.....	7
	《就労継続支援B型事業》就労支援センターつばさ	7
1	事業の概要	7
2	事業実績	7
3	行事等の年間活動	9
4	就労支援	9
5	作業の概要	10
6	令和6年度に向けて	14
	《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》能美地域活動センターはまかぜ.....	15
1	事業の概要	15
2	事業実績	16
3	印刷部門	17
4	内職部門	18
5	その他部門	18
6	物販部門	19
7	その他	20
8	令和6年度に向けて	20
	《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》能美地域活動センターはまかぜ山口分場....	21
1	事業の概要	21
2	事業実績	21
3	令和6年度に向けて	25
	《共同生活援助事業（介護サービス包括型）》グループホームなごみ・しらさぎ.....	25
1	事業の概要	25
2	年代別利用者内訳	26
3	利用状況	26

4	主な日中の生活の場	26
5	利用者支援等	26
6	令和5年度の動向	29
7	令和6年度に向けて	29
	《相談支援事業》相談支援センターなごみ・相談支援センターはまかぜ	30
1	事業の概要	30
2	事業の実施期間	30
3	事業内容	30
4	事業実績（相談支援センターなごみ）	30
5	事業実績（相談支援センターはまかぜ）	32
	《生活介護事業、地域活動支援事業》地域活動センターくろゆり	34
1	事業の概要	34
2	事業利用状況	35
3	事業活動内容	37
4	令和6年度に向けて	37
	《生活困窮者就労準備支援事業》のみワークポートりんく	37
1	事業の概要	37
2	事業実績	39
3	令和6年度に向けて	40
	《地域交流推進事業》	41
1	地域交流センター及び地域交流室の活用	41
2	その他の地域福祉関係者の活動内容	41
3	ボランティアに関すること	42
	第22回なごみ祭り	44
Ⅲ	令和5年度の決算状況	45
1	資金収支計算書	45
2	事業活動計算書	46
3	貸借対照表	47
Ⅳ	各種委員会報告	48
1	職場内研修委員会	48
2	虐待防止等委員会	48
3	学生実習	48
4	コマニー（株）新入社員研修	49

V	その他.....	4 9
1	研修・各種団体会議への出席.....	4 9
2	関連団体への参加	5 0
3	なごみの郷苦情解決第三者委員.....	5 2

I 法人の概要

1 法人の沿革

年	月	摘 要
平成 10	12	「社会福祉法人なごみの郷」設立発起人会発足
11	8	社会福祉法人なごみの郷設立 初代理事長 廣川 俊雄氏 就任
12	4	なごみの郷本館新築 精神障害者社会復帰施設「地域生活支援センターなごみ」 「福祉ホームなごみ」「通所授産施設つばさ」開設
13	3	二代目理事長 西出 外次 氏 就任
14	4	精神障害者「グループホーム弥生荘」開設
	10	ホームヘルプサービス事業開始
15	4	なごみの郷敷地内にしらさぎ館新築 精神障害者「グループホームしらさぎ」「地域交流センターしらさぎ」 小規模通所授産施設「フレンズくろゆり」開設 レスパイトケア事業・精神障害者地域生活サポート事業開始
	8	三代目理事長 木村 正行 氏 就任
18	10	「福祉ホームなごみ」より障害福祉サービス事業「ケアホームなごみ」 に事業変更・経過的地域生活支援センター事業（小松市委託）開始 「地域生活支援センターなごみ」より 相談支援事業（小松市委託）に事業変更
19	3	相談支援事業（小松市委託）廃止
	4	「地域活動支援センターくろゆり」「相談支援センターなごみ」 「ホームヘルプステーションなごみ」開設 「通所授産施設つばさ」より「就労支援センターつばさ」に事業変更
	5	「グループホームしらさぎ」より 「グループホームケアホームしらさぎ」に事業変更
20	11	「地域活動支援センターくろゆり」より「地域活動センターくろゆり」 に事業変更・「相談支援センターなごみ」増築
	12	「地域活動センターくろゆり」改築
21	8	四代目理事長 水腰 久美子 氏 就任
	10	法人設立 10 周年記念式典開催
22	4	「グループホームケアホームしらさぎ」より「ケアホームしらさぎ」 に事業変更
	8	五代目理事長 小杉 修 氏 就任
24	3	「能美地域活動センターはまかぜ」を就労支援センターつばさの サテライト事業所として開設
	8	六代目理事長 荒田 稔 氏 就任

25	4	「能美地域活動センターはまかぜ」を就労継続支援（B型）事業と地域活動センターとして開業
	8	「相談支援センターはまかぜ」を能美地域活動センターはまかぜ内に開設
26	4	「ケアホームなごみ」「ケアホームしらさぎ」を「グループホームなごみ」「グループホームしらさぎ」に事業変更
30	4	「地域活動センターくろゆり」自立(生活)訓練事業を休止
	11	「ホームヘルプステーションなごみ」居宅介護事業を休止
令和 1	8	「能美地域活動センターはまかぜ山口分場」を能美地域活動センターはまかぜのサテライト事業所として開設 相談事業所「相談支援センターはまかぜ」を山口分場内に移転
2	4	「能美地域活動センターはまかぜ山口分場」を就労継続支援（B型）事業所と地域活動センターとして開業
	8	「グループホーム弥生荘」共同生活援助事業を廃止
	11	「地域活動センターくろゆり」自立（生活）訓練事業を廃止
3	7	「相談支援センターはまかぜ」自立生活援助事業を開業
4	4	「のみワークポートりんく」を開業して就労準備支援事業（能美市委託公益事業）を開始
	10	「ホームヘルプステーションなごみ」を廃止
6	4	七代目理事長 北 岡 和 代 就任
		相談支援センターなごみに小松市から委託を受けて引きこもりステーション事業を開始

2 施設の規模

社会福祉法人なごみの郷		〒923-0851 小松市北浅井町 123 番地
・敷地面積		2,415.00 m ²
・建物 3 棟総床面積（構造・面積 木造一部 2 階建て）		1,017.24 m ²
グループホームなごみ	306.19 m ²	・就労支援センターつばさ 348.85 m ²
相談支援センターなごみ他	160.83 m ²	・グループホームしらさぎ 89.43 m ²
地域交流センターしらさぎ	104.34 m ²	・ボンセン加工室 24.00 m ²
地域活動センターくろゆり		〒923-0863 小松市不動島町 甲 22 番地
・敷地面積（甲 21 番地 駐車場含む）		339.59 m ²
・建物床面積（構造・面積 木造 2 階建て）		211.89 m ²
能美地域活動センターはまかぜ		〒929-0105 能美市中ノ江町と 104-1 番地
・敷地面積		1,817.50 m ²
・建物床面積（構造・面積 鉄筋コンクリート 1 階建て）		389.18 m ²
	倉庫	32.17 m ²
能美地域活動センターはまかぜ山口分場		〒929-0126 能美市山口町 ホ 17-1 番地
・敷地面積		2,311.87 m ²
・建物床面積（構造・面積 鉄筋コンクリート 1 階建て）		519.00 m ²
	機械室他	113.78 m ²

3 組織・機構

(1) 令和6年度法人の役員等名簿（令和6年4月1日現在）

役員

理事長 北岡 和代	理事 荒田 稔	理事 宮吉 正明
理事 飯田 清美	理事 村中 豊	理事 高田 茂
監事 千田 純一	監事 三上 紀美恵	—

以上理事6名監事2名

(2) 顧問

木崎 馨山

以上2名

(3) 評議員選任解任委員

監事委員 三上 紀美恵	外部委員 細川 勝正	外部委員 新谷千代子
外部委員 高見 京子	事務局委員 瀬戸俊文	—

以上5名

(4) 評議員

中島 捷純	中村 良正	岡田 和昌	木村 衣里
鈴木 淑	樫村 優紀世	坂田 恵子	—

以上7名

(5) 苦情受付

苦情解決第三者委員	相上 律子	井村 千里
-----------	-------	-------

苦情解決責任者	高田 茂	苦情受付担当者	瀬戸 俊文
---------	------	---------	-------

4 関係団体の動き

年度	摘 要
昭和48年	小松保健所（現南加賀保健福祉センター）管内精神障害者家族会「くろゆり会」発足
昭和63年	小松市不動島町に小規模作業所「くろゆり作業所」開設
平成5年	ボランティアグループ「くろゆり作業所を支える会」発足
平成6年	小松保健所のメンタルヘルスボランティア講座始まる。 ボランティアグループ「メンタルフレンズつばさ会」発足 小松市末広町に第2作業所「ワークハウスつばさ」開設
平成7年	小松能美こころの街づくり推進協議会開催 ボランティアグループ「みのり会」発足

平成 8 年	「ワークハウスつばさ」小松市小馬出町に移転 ボランティアグループ「こだま会」発足
平成 9 年	「小松能美精神障害者社会復帰施設法人設立準備の会」発足
平成 10 年	ボランティアグループ「ハーモニー」発足
平成 11 年	ボランティアグループ「ののはな」発足
平成 12 年	小松能美メンタルヘルスボランティア連絡協議会発足
平成 14 年	ボランティアグループ「かよう会」発足
平成 15 年	ボランティアグループ「のぞみの会」発足
平成 16 年	メンタルヘルスボランティア 8 グループを統一して、「小松能美メンタルヘルスボランティア友の会」として発足
令和 2 年	「小松能美メンタルヘルスボランティア友の会」を 「メンボラ T o M o の会」に改名する。

職 員 体 制					令和6年4月1日現在	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び 職 名			氏 名		備 考	
所 属 及 び						

令和5年度 特記事項

固定資産の取得

・ 車輛運搬具

8 月	業務用軽乗用車更新（相談なごみ）	400,000 円
1 1 月	業務用軽乗用車更新（相談はまかぜ）	590,840 円

・ 大型修繕（10 万円以上）

4 月	はまかぜ木造部分屋根修繕	1,100,000 円
6 月	はまかぜ窓サッシ網戸修繕	132,000 円
8 月	GHしらさぎ非常階段修繕	759,000 円
1 0 月	つばさ調理室等外壁塗装工事	253,000 円
〃	なごみの郷コンテナ棟塗装雨樋工事	248,600 円

・ その他

1 2 月	ほほえみ基金（北國新聞社） 能美地域活動センターはまかぜ寄付金	50,000 円
-------	------------------------------------	----------

以上

Ⅱ 支援部

《就労継続支援B型事業》 就労支援センターつばさ

1. 事業の概要

就労支援センターつばさは令和2年4月に就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援B型事業所（定員20人）として新たなスタートを切っている。しかし、それまでに培ってきた就労支援スキルと各関係機関との繋がりを駆使し、一般就労を目指す方への支援も積極的・継続的に行っている。また、様々な作業を通して各利用者の適正作業を把握し個別の面談を細やかに行い、一人ひとりの希望に応じたステップアップを図っている。今後も、利用者の顕在的・潜在的なストレングスを発掘し、未来に夢が持てる就労支援に努める。

（サービス内容）	心身面で一般就労が難しい方や、一般就労の経験はあるが体力や年齢から企業等に雇用されるのが困難な方、一定年齢に達している方に対し、通所による就労や生産活動の機会を提供する。 また、一般就労に意欲がある利用者に対して、必要な知識の修得や能力向上をめざし、個々に応じて支援する。
（定 員）	20人
（利用料）	673円／日（個人の所得によって上限がある）
（サービス提供日時）	毎週月～金曜日（午前8時30分～午後5時まで） 販売会、行事等により土・日・祝日有り
（利用期間）	なし
（作業内容）	菓子製造、喫茶、厨房、委託事業、エコステーション管理
（その他）	昼食・送迎サービス

2. 事業実績

（1）登録者の推移

①人数

単位：人

利 用 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
就労継続（B型）（定員20人）	32	33	33	33	33	32

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	前年度
32	32	32	31	31	31	385	32	33

②市町村登録者数

単位：人

市町村名	小松市	能美市	加賀市	福井市	合 計
延 人 数	349	12	12	12	385
構成比率	91%	3%	3%	3%	100%

③年代別登録者数（令和 6 年 3 月 31 日現在）

単位：人

年 齢	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代～	計
男 性	0	4	2	3	4	4	17
女 性	0	3	3	1	3	3	13
計	0	7	5	4	7	7	30

（２）延利用者・利用率の推移

就労継続支援（Ｂ型）事業

開所月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
延利用者（人）	372	397	405	349	345	362
開所日数（日）	21	22	22	23	20	20
稼 働 率	88.6%	90.2%	92.0%	75.9%	86.3%	90.5%

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	月平均
381	369	346	332	360	347	4,365	363.8
23	21	20	19	20	21	252	21.0
82.8%	87.9%	86.5%	87.4%	90.0%	82.6%	86.6%	

（３）平均工賃の推移

単位：円

支給月	4 月	5 月	6 月	特別賞与	7 月	8 月	9 月
総支給額	205,390	173,380	183,850	256,000	169,800	151,020	177,900
平均工賃	6,846	5,593	6,566	8,000	6,289	5,394	6,134
支給人数	30 人	31 人	28 人	32 人	27 人	28 人	29 人

10 月	11 月	12 月	年末賞与	1 月	2 月	3 月	年度平均
174,190	217,790	177,110	298,000	121,560	158,320	159,140	
6,221	7,510	6,107	9,313	4,502	5,459	5,305	7,453
28 人	29 人	29 人	32 人	27 人	29 人	30 人	29.3 人

令和 5 年度は 15 件の問い合わせがあり、見学に至った方は 11 件、体験まで繋がった方は 3 件で、体調が安定せず体験に至らなかった方や福祉サービスが初めてで情報収集したいという方が多かった。また新規登録者は 1 人、一般就労による退所 1 人、事業所変更による退所は 2 人であった。今年度は当事業所を利用されている方々の十分な作業量の確保と工賃支給額 UP への取り組みを重視する予定だったが、事業所内の作業が作業希望者とうまくマッチングせず、作業はあるものの作業者がいないという状況に陥った。ただ、行ったことのない作業で力を発揮してみたいという利用者も数名おり、つばさ内でのステップアップを図ることができ、工賃 UP に繋がった利用者もいた。

令和 6 年度は、利用者の持つ夢ややりがい等をしっかりアセスメントし、現在利用者募集中である作業とのマッチングや作業を通して得られるものの意義を考えていきたい。また募集中である作業の特徴を当事者や相談支援専門員など関係機関にも随時伝えて、作業

支援や作業を通じた居場所を求める方々に情報提供及び作業提供出来るよう努める。

(文責：中村)

3. 行事等の年間活動

生活のリズムを整え、気分転換と交流の機会をもち、社会性の幅を広げることを目的として活動している。今年度はCovid-19感染の影響も収まってきたため、基本的な感染対策(手指消毒、換気)を引き続き守りながら、以前と同じような会食や外食などの行事を開催した。特に利用者からの希望がありクリスマス忘年会を開催した。しかし、その他に何かしたいという声はなかった。また、企画はしたが地震の影響で中止にした行事もあった。利用者も平日だと作業を休んでまでしたいわけではなく、土日では休みたい意見が多く、数名の参加者にとどまる行事が多い。また「〇〇しないの?」という話は個別で出るが、そこから利用者自身が自発的、主体的に動くという発展性はない。行事は職員が企画するものであるという意識が強い利用者に対して、自発的、主体的に行事を企画運営していく力をつけるための方策を具体的に検討していくことが、今後の課題である。

単位：人

開催月	活 動 内 容	参加人数	開催場所
7 月	スポーツ (ソフトバレー)	2	松陽地区体育館
8 月	カラオケ&ピザパーティー	5	なごみの郷
1 2 月	クリスマス 忘年会 2023 つばさ	14	
1 月	新年会・初詣 →地震のため映画観賞会に変更	11	なごみの郷
2 月	人権についての勉強会	12	
3 月	防災訓練	12	

4. 就労支援

令和5年度はハローワーク、障害者就業・生活支援センター、相談支援専門員、ご家族、行政・医療機関等と連携をとり、計4人の就労支援を行った。その内、1人は就職をした。就労支援特別プログラムとしてチャレンジワークの実施、ハローワーク同行、個別SST(社会生活技能訓練)、就労応援セミナー、障害者合同面接会の同行を行った。また、就労準備として(株)リクルートのKnowbeソフトやビジネス本を活用しながら、ビジネスマナーを中心の個別SSTや就労パスポートの作成を行い、就労準備性を高めた。

支援職員は、南加賀就労支援強化連絡会就労支援勉強会、障害者雇用連絡会議、就労支援に関わる研修等の参加を通して情報交換を行い、知識や支援スキル等の向上に努めた。

<令和6年度に向けて>

就労支援プログラムに関しては、チャレンジワークなどで職場体験を行い、就労模擬体験の個別支援や、ビジネスマナーの講師を招いてのビジネスマナー講座を開催しながら一般就労に向けて引き続き支援していく。一般就労希望はしているが、体力に自信がない、症状が安定していない、仕事のイメージがつかない等で一步を踏み出せない利用者に対しては、次へのステップアップができるようにスモールステップを意識した関わりをしていく。また、他機関と連携しながらの就労支援を行っていく。障害者就業・生活支援センター、ハローワーク等と連携し、求人探しから、面接、就職、そしてその後安定した勤務として定着するような支援をする。

(文責：金谷)

5. 作業の概要

1) 菓子製造販売部門（西東・八田）

<令和5年度の主な動き>

相手先と話し合いを重ねたことにより、コマニー株式会社、公立小松大学、小松市民病院とイベント販売や定期的な販売会等が実現し、販路拡大に繋げることが出来た。また、ケーキハウスマルフジとの綿密な打ち合わせをした結果、これまでのいりがし・小松産大豆のきな粉の定期的受注に加えて、米粉（小松産産米）の定期的受注を新たに受けることができた。

原材料費等の高騰から、令和5年9月よりいりがし・ぼんせんべいの小袋販売価格の一律30円値上げ、材料持ち込みの加工賃の100円値上げをした。

材料持ち込みでのいりがし加工が出来るところが全国的に数少なくなっており、県内・外からアレルギーを持っているお子様やペット用のおやつとしての加工注文を定期的に受けるようになった。結果、持ち込みのいりがし加工の売上は昨年度より5万円程延び、140,480円となった。売上がさらに伸ばすための広報活動を今後、検討していく。

(1) 常設販売

販 売 場 所	販売商品
安宅ビューテラス	加賀いりがしセット、弁慶ぼんせん
夢や、平和堂小松店、JAあぐり道の駅こまつ木場潟、JAグリーン	いりがし、ぼんせん各種
小松市社会福祉協議会	いりがし、ぼんせん各種

(2) 注文販売

企業・団体 売上計：186,086円

企業・団体名	企業・団体名
コマニー株式会社	小松市民病院
メンボラ ToMo の会	

(3) 企画販売

いりがし、雛いりがし等 注文（いりがし、ぼんせんべい、菓子セット）

計58件：132,390円

特記事項：注文数が昨年度の43件から58件と大幅に増え、売り上げは昨年度の98,730円より、33,660円の増となった。年末頃より能美市保育園担当者に向けて、いりがしの営業活動を積極的に行い、結果として能美市の全放課後児童クラブの雛祭り用のお菓子の受注に成功したことがその理由と考えられる。

<令和6年度に向けて>

令和5年度の売上をさらに伸ばしていくために、常設販売、注文販売、企画販売を積極的に行っていく。そのため、お客様や担当者の側の意見を聞き、こまめで迅速な具体的な対応をしていきたい。又、季節やイベントに沿ったいりがし・ぼんせんべいの表シールを作成するために、イラストが得意な利用者に作業として委託していきたい。

菓子作業の担当者不足が課題となっている。作業や工賃を増やしたい方に対し、個別に声掛けし、見学や体験を通して新たな担当者を育成していきたい。 （文責：西東）

2) ダイニング部門

(1) 喫茶

<令和5年度の主な動き>

Covid-19の感染影響も少なくなったが、喫茶作業に安定して利用者が入っていない現状やキャパシティの限界もあり、大々的に宣伝はしなかった。そのため、利用者、職員、ボランティアが主なお客様だった。利用者や職員向けにかき氷やぜんざいなどの季節のデザートその他、人気商品であるプリンはきなこ味、コーヒーマ味など様々な味を提供し、少しでも喫茶を利用して頂けるように工夫した。また喫茶作業利用者も時には違うことで作業に楽しく取り組める工夫を凝らした。ここ数年、喫茶作業利用者が安定して作業に従事できない現状が続いている。そのため職員のみ営業時は営業時間を短縮した。担当利用者が休みの時の対応として、臨時で他の利用者呼びかけし利用者が1名で作業を行い最後まで従事した場合は時給を50円アップした。作業手順を変更した際は、担当の利用者に対してその都度伝えている、共通認識ができておらず、お客様対応がまちまちになってしまうという課題が出ている。

<令和6年度に向けて>

安定して作業に従事することは昨年に引き続き課題としてある。また、職員のマンパワー不足により、専従の職員を置くことが難しい状況にもなってきた。そのため、なるべく利用者のみでも喫茶を営業できるようにメニューの内容、作業手順の大幅な見直しをする。そして、利用者が主体的に作業に取り組み、モチベーションを上げ、安定して作業に入るために喫茶ミーティングを定期的に行う。

(文責：北島)

(2) シフォンケーキ

<令和5年度の主な動き>

新たにココアマール味を販売した。小松市、能美市の社会福祉協議会での毎週の固定数販売、くろゆり、はまかぜ、はまかぜ山口分場の月1回の受注販売、小松市民病院の受注販売など注文数は増えてきている。しかし、利用者が安定して作業に入っていない現状があり、職員のみで作業を行う時があり課題である。また、大口の注文はあるものの、安定供給できる受注の確保がされていないことが課題となっている。

<令和6年度に向けて>

販売先の新規開拓を行い、安定した作業を提供する。また、地元の食材を取り入れた新商品の開発に取り組んでいく。現在作業人員が1名のところを増員していき、シフォンケーキ作業を拡充していく。これにより、利用者の達成感や充実感、作業へのモチベーションを上げていける取り組みをしていく。

(文責：金谷)

(3) 給食配食弁当部門

<令和5年度の主な動き>

- ・物価高騰により、10月から一律50円の値上げを行った。
- ・一般注文：地域で食事を必要とする方々に対し、既存の配達ルート上で可能な限りで対応した。
- ・利用者との関わり方：各担当者との情報共有を密に行い、一人ひとりに合わせて対応した。厨房作業に従事している利用者は特定の人が多いことから新しい利用者の募集をしたが、不安定な利用者が多かったこともあり、スタッフで補うことが多かった。
- ・月1回のふれあい弁当事業：必要とする地域の人々にお弁当の提供を行った。
- ・年1回、昼食利用者へアンケートを実施した。昼食全体については約80%の方が満足、やや満足と高評価いただいた。しかし、食材が「固い」や味が「薄い」ときがあるとい

った意見もあった。印象に残った料理を尋ねたところ、丼料理全般、魚料理全般に好意的意見を頂き、その中でもガパオライスやハヤシライス、鮭料理が好評であった。昼食に望むものを尋ねたところ、味付けと季節感のある献立がとくに重要と感じておられる方が多いことが分かった。これらの意見を食事提供に生かし、新メニューや季節の食材を取り入れての献立の見直しを行い、顧客満足度の向上につなげた。

- ・「栄養だより」：利用者自身が食事や健康に興味を持ち、生活習慣を見直すきっかけになるような内容を中心に考え、不定期ではあるが発行した。
- ・年2回の身体測定の実施により、利用者の健康状態の把握を行った。
- ・月1回の厨房内害虫駆除の実施をした。

<令和6年度に向けて>

- ・外部からの注文は既存の配達ルート上であれば可能な限りで対応していく。
- ・特別弁当の注文に対しては、利用者の昼食を優先的にし、提供可能食数(60食程度)の範囲であれば対応していく努力をする。
- ・引き続き利用者とは担当者との情報共有を密に行い、一人ひとりに合わせて対応していく。安定して作業に従事できる利用者が少ない半面、募集している作業が多い現状を踏まえ、一人ひとりに声かけをし、まずは厨房作業に興味を持ってもらえるよう働きかける。また、作業能力に合わせた工賃評価により、個々のスキルアップにも繋げていく。
- ・月1回の「ふれあい弁当」事業と「栄養だより」発行を継続していく。
- ・年1回の昼食アンケートを参考に、新メニューの開発や季節の食材を取り入れた食事提供を行い、顧客満足度の向上に繋げていく。
- ・年2回、利用者に身体測定を実施し、健康状態を把握する。
- ・毎月、厨房内害虫駆除を実施する。

(文責：山田)

昼食販売実績推移表

単位：食

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
給食	1,371	1,604	1,318
館内(弁当)	3,961	4,182	4,434
くろゆり	935	1,241	1,195
はまかぜ	330	342	304
山口分場	441	511	509
夢や	278	172	30
その他(一般)	2,959	2,548	3,064
合計	10,275	10,600	10,854

3) 委託作業

(1) 小松市からの委託

令和5年5月：ふれあい福祉課から小松市内の246町内会への数種類の書類、ポスター、世帯数分のパンフレットを仕分けて紐でしばる作業を請け負った。

令和5年11月：納税課から口座振替用紙折り込み作業を請け負った。

(2) 企業からの委託

引き続き、沖田産業（株）からコード袋詰め作業、トウエイ工業株式会社から段ボールカット作業、（株）九谷陶泉から九谷焼転写貼り作業を請け負った。

ここで力をつけた利用者は菓子や喫茶、厨房作業へ移行できた。しかし、高齢による能力低下や精神状態によって集中力がないことによる作業の精密さの低下が生じ、これまでと同じ作業ができなくなってきた利用者が増えてきた。また、委託作業はその日によって作業量が違うため、毎日一定の作業時間を提供できない現状がある。そのため、新たな作業を追加するが、各利用者の能力にあった作業が安定して提供できるわけではないという課題が生じている。

(3) 古紙リサイクルステーション

小松市との委託契約を更新し「古紙リサイクルステーション3号店」の管理運営を引き続き行った。ゴールデンウィークなどの大型連休にも開所日にし、運搬を行うこともあった。しかし、昨年と比べて全体的に取扱が減少した。また昨年に引き続き、取り扱いえないリサイクル品や一般ゴミの放置、古着の物色等の問題が見られ、整理整頓する作業も継続して行った。

年間を通して市役所の環境推進課と連携し、見回りやポスター掲示などマナー違反の対応を強化しており、問題は少しずつ改善はしている。とはいうものの、まだまだ地域の方々へ周知する方法が継続的課題である。

古紙リサイクルステーション取扱量

単位：kg

種 類	令和4年度	令和5年度
段ボール・牛乳パック	8, 510	7, 450
新 聞	6, 490	4, 700
雑誌・チラシ	15, 290	12, 290
合 計	30, 290	24, 440

(4) アクリルタワシ

主な販売がはまかぜからの注文のみであり、その他の個別販売売上はほぼなかった。作業ができる利用者も限られていること、教える職員もいなくなっていることの理由により、残念ではあるが今年度で終了する決定をした。

(5) リサイクル分別

なごみの郷館内の缶・ビン・ペットボトルを毎週火曜日と金曜日に分別を行い、月1回「サービスセンターあしだ」へ運搬している。

<令和6年度に向けて>

・小松市より委託されている“古紙リサイクルステーション3号店”の利用マナーを小松市

と連携して周知徹底を図りながら運営管理を行う。在留外国人や障害を持っている方等、どなたでも分かるような表記をし、見やすい看板を作成していく。

- ・つばさの環境にあった作業を提供しつつ、力が付いてきた利用者には菓子や厨房、喫茶など他の作業へ移行できるように引き続き支援する。
- ・高齢による能力低下や精神状態によって集中力がなく、精密な作業ができない利用者に対しては、作業だけでなく、能力の維持をするために運動プログラムなどを取り入れる。

(文責：金谷)

令和5年度作業部門別収支内訳書

科目名	給食	喫茶	菓子	アクリル たわし他	リサイクル 分別	エコステ 清掃	その他の 委託	合計
収入の部計①	5,309,443	1,016,042	1,349,470	31,008		600,000	205,649	8,511,612
前年度収入	5,075,100	1,022,040	1,067,330	46,706		600,000	291,016	8,102,192
材料費								
材料仕入高	3,610,283	323,051	364,842	3,920				4,302,096
労務費								
利用者工賃	964,816	412,144	535,440	94,046	50,000	299,315	267,689	2,623,450
経費								
福利厚生費	20,900							20,900
消耗品費	227,394	27,724	33,152		657	17,664	13,435	320,026
水道光熱費	184,428		46,386					230,814
通信運搬費			1,640					1,640
修繕費								0
雑費								0
租税公課	146,154	39,234	30,711	1,341			34,270	251,710
支出の部計②	5,153,975	802,153	1,012,171	99,307	50,657	316,979	315,394	7,750,636
前年度支出	5,137,658	989,518	1,028,522	96,122	46,750	318,794	401,567	8,018,931
余剰金①－②	155,468	213,889	337,299	△68,299	△50,657	283,021	△109,745	760,976

6. 令和6年度に向けて

基本方針

- ・「安心→自信→回復」を目指して利用者ニーズに応える事業活動を進めます。
- ・共生・共助の地域づくりに努め、地域に開かれた事業所としての取り組みを行います。

重点実施事項

- ① 利用者のスモールステップの為、作業や日々の会話の中で安心が自信に繋がる声掛けと仕組み作りに取り組みます。
- ② 一人ひとりの歴史や大切にしているものをしっかり聴き取り、これからの希望になり得るものを共に考え、チームで共有します。
- ③ 地域課題の発見に努め、地域の一員としての役割を担うことで、施設の意義・障害への理解を深めていけるような活動に取り組みます。

(文責：中村)

《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》
能美地域活動センターはまかぜ

1. 事業の概要

はまかぜは、就労継続支援B型事業（定員20人）・地域活動支援センター事業（定員10人）を行う事業所として、12年目を向かえた。COVID-19が5類に移行した5月以降、制限緩和の中で作業や余暇活動に関して活動のしやすさがでている。利用実績の動きとしては、体調不良や身体機能面の低下により就労から遠ざかる方、またこの度の能登半島地震による影響を受け、不安などから通所が安定しない方などもみられ、利用実績は減少している。作業に関しては、印刷を中心に既存作業の売上げは、伸びこそ多くはないが安定した売上げを継続できた。また年明けから企業の委託で準備に入っている、道路工事用の看板製作などの作業請負も進められ、次年度に向けての工賃向上に期待をする。その他、地域での販売会などはCOVID-19が蔓延する以前に戻り、地域に参加していける機会が増えている。

(1) 就労継続支援B型事業

(サービス内容)	心身面で一般就労に困難さを抱える方に福祉サービスとしての就労・生産活動などの機会を提供し、意欲のある方には一般就労に向けての必要な支援をする。
(定 員)	20人
(利用料)	〔1割負担額〕1日726円（個人所得によって上限あり）
(利用期間)	なし
(作業内容)	印刷業務：名刺、年賀状、機関誌、チラシ類、封筒 等 制作業務：道路工事用の看板製作 等 内職業務：梱包作業、箱作業、封詰め作業 等 自主製品：大麦ご飯の素、ぼち袋、手芸品 等 施設外就労：清掃作業
(その他)	昼食、送迎サービス

(2) 地域活動支援センター事業

(サービス内容)	心身面で日常生活に不安を抱える方に居場所を提供し、生活相談を行い、創作や余暇活動などへの参加を通して、その方らしい地域生活が送れるように支援する。
(定 員)	10人
(利用料)	〔1割負担額〕 3時間以下 218円 3時間を超えて4時間以下 273円 4時間を超えて5時間以下 327円 5時間を超えて6時間以下 381円 6時間を超えた場合 435円
(利用期間)	なし
(内 容)	生活相談、創作・余暇活動（パソコン、レク行事〔カラオケ食事会、散策等〕）、生産活動、又ほっと一息の居場所として活用
(その他)	昼食、送迎サービス

2. 事業実績

(1) 登録者の推移

①人数

単位：人

利 用 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
就労継続支援（B 型）（定員 20 人）	25	26	28	27	27	26
地域活動支援事業（定員 10 人）	2	2	2	2	2	2

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	月平均
26	25	26	26	26	26	314	26.2
2	2	2	2	2	2	24	2.0

②市町村登録者数（令和 5 年 3 月 31 日現在） 単位：人

市町村名	能美市	小松市	その他	合 計
延 人 数	161	138	15	314
構成比率	51.3%	43.9%	4.8%	100%

③年代別登録者数（令和 5 年 3 月 31 日現在）

単位：人

年齢	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代～	計
男性	0	1	3	8	7	1	19
女性	0	1	2	3	1	1	7
計	0	2	5	11	8	2	26

(2) 延利用者・利用率の推移

就労継続支援 B 型事業

単位：人

開 所 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
延べ人数（人）	229	250	286	248	253	227
開所日数（日）	21	22	24	22	24	22
稼働率	54.5%	56.8%	59.6%	56.4%	52.7%	51.6%

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	月平均
236	229	217	191	224	233	2823	235.3
23	22	23	20	21	21	265	22
51.3%	52.0%	47.2%	47.8%	53.3%	55.5%	53.3%	

地域活動支援センター事業

開 所 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
延人数（人）	0	0	0	0	0	0
開所日数（日）	21	22	24	22	24	22
稼働率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	月平均
0	0	0	0	0	0	0	0
23	22	23	20	21	21	265	22
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%	

(3) 平均工賃の推移

単位：円

支 給 月	4 月	5 月	6 月	特別賞与	7 月	8 月	9 月
総支給額	185,870	159,140	186,930	257,600	171,480	204,750	180,110
平均工賃	11,617	8,841	8,901	13,558	8,166	9,750	10,006
支給人数	16 人	18 人	21 人	19 人	21 人	21 人	18 人

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年度末賞与	年度平均
158,630	216,350	205,840	119,520	147,660	200,040	798,870	
8,813	12,019	10,834	5,976	7,031	10,020	39,944	11,826
18 人	18 人	19 人	20 人	21 人	20 人	20 人	19.3 人

令和5年度の新規登録者は6人、登録終了者は5人（自宅療養2人、他事業所2人、一般就労1人）であった。今年度は就労移行できた方はおられたが、体調や身体機能低下による療養を余儀なくされる方が多い年度となった。（文責：山口）

3. 印刷部門

＜令和5年の主な動き＞

◇名刺—前年度は民生委員の一斉改選が行われたため、枚数依頼は多かったが、今年度の枚数は大幅に減った。これまでのCOVID-19の影響もあって、営業活動も積極的に行えず影響したか新規注文があまりなかった。傾向としては個人の好みでデザインを希望される方が多くなってきたので利用者のスキルを高め、出来る限りニーズに応える対応をした。

◇年賀状—前年度とほぼかわらない注文件数は獲得できた。お客様の傾向として年賀状を辞める傾向にある為、徐々に注文枚数を減らしているので減少傾向であった。しかし、新規のお客様と2～3年注文がなく間隔があいての再注文のお客様が前年度より14件多かった。また引き続き早期に営業し、既存の顧客はしっかり獲得できるよう、早めのカatalogの郵送、配布に力を入れた。

◇自主製品—前年度同様、ぽち袋のデザイン変更を行った。デザインだけでなく紙の素材やパッケージなどにもこだわり、よりクオリティの高いものを目指し商品化した。その結果、イベントや販売店でのお客様の反応は良く購入に結び付けられた印象がある。

◇他印刷—能美市より封筒印刷、JDDパンフレット、日本赤十字社献血粗品、イベントチラシ、パープル・オレンジリボン作成、認知症サポートカード作成、生活困窮者・DV相談カード作成、つながるマップ作成、街フェスチラシ作成、虐待防止パンフレット印刷、自殺予防啓発チラシ・粗品作成など、能美市社会福祉協議会より、成年後見人チラシやパンフレット印刷、カードサイズカレンダー

作成など、関係団体より、メンボラ ToMo 会会報、小松市特別支援教育振興会機関紙、北浅井町公民館報、蝶屋福祉だより、小松市理容組合カレンダーカード作成など、なごみの郷からの、概要・封筒印刷、個人様よりポスター、プログラム作成、チケット作成の注文などをいただいている。

項 目	令和 4 年度	令和 5 年度	項 目	令和 4 年度	令和 5 年度
年賀状	11,492 枚	10,718 枚	北浅井町公民館報	4,500 部	4,575 部
名刺	21,910 枚	14,985 枚	会報・機関誌	7,950 部	8,330 部
ぼち袋・しおりセット	268 個	155 個	封筒各種	24,770 枚	40,100 枚
チラシ・パンフレット	14,353 部	9,090 部	なごみの郷概要	50 部	50 部
川北町自殺予防粗品	2,000 個	2,000 個	なごみ通信	1,815 部	2,270 部

<令和 6 年度に向けて>

安定した作業の提供を行えるよう、定期的な営業活動を行ない名刺や年賀状、封筒印刷など従来の作業量を増やしていく。また利用者の社会参加としても営業や納品など外に出る機会を増やし、お客様とのやりとりを通じ、やりがいや繋がりをもてるようにしたい。印刷の自主製品に関しても、利用者本人のアイディアや意見を大切にし、新たな製品に繋がるようサポートしていく。

(文責：南出)

4. 内職部門

<令和 5 年の主な動き>

1) Amazon 納品代行

昨年同様、食品をはじめ、化粧品やペットフード、自動車の部品や衛生用品など幅広い商品を扱い、梱包し出荷作業を行った。

2) 河村（株）

菓子の箱折り作業を中心に行った。当初、作業工程が多く難しいような印象があったが、意欲的に取り組む方が多く、定番の作業となった。

3) (株) 明月堂

本年度より、バームクーヘンのシール貼りを中心に作業を行った。根気と指先の巧緻性が必要とされる作業であるが、その点で強みのある利用者はコツコツと取り組んでいる。

5. その他部門〔制作業務〕

NPO 法人ばんそうこう

年明けから委託を受け準備し、道路工事用の看板製作やプランターなどの木製品の加工、レンタル用品の清掃・管理などの作業を開始した。身体を大きく動かしての作業や、初めて経験する作業が殆どで戸惑う声も多いが、A 型事業所へのステップアップを意識して働く方などは、次への新たな就労イメージともなり励みになってきている。

<令和 6 年度に向けて>

次年度も、各取引先との連携や協力を密にし、信頼をもっていただけるよう正確な検品や早期の納品などのニーズに応える努力をしていきたい。また、新しく取引を開始した企業も増え、作業の種類としては増やすことは出来たが、手間暇がかかる分、工賃が低いといった

ことが極端にならないよう、費用対効果を吟味しながら、作業負担と工賃向上のバランスを図ることを次年度の課題としたい。

(文責：山口)

6. 物販部門

<令和5年度の主な動き>

1) 大麦ご飯の素

JA 小松市より「大麦ご飯の素」商品販売の業務を引き継ぎ、4年目となり昨年度以上の売上げに向けて、個人の商店にもPR、SNSなどでも発信し営業した。既存の販売場所は、道の駅こまつ木場潟、JA あぐり、JA 営農企画、能美グリーン、根上屋の販売で、その他関係企業、個人商店で販売先を増やしたが、販売量は減少している。利用者の作業面は、精麦された大麦から不純物を手作業で取り除く選別作業、専用袋に入れる計量作業、商品配達や作業場を清掃する作業など、多くの工程があるため、各作業で関われる利用者は多い。

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
大麦ご飯の素 商品	1,028 パック	1,451 パック	1,184 パック
大麦加工品のみ	470 k g	250 k g	230 kg

2) 手芸品自主製品

令和2年度より手芸品の販売を行っているが、ラインナップをリニューアルしながら「ティッシュカバー」「髪飾り」「ハーバリウムボールペン」「まんまる巾着」「ストラップ」と種類を増やした。販売会で対面販売することにより、買い手側のニーズを直接聞き製品作りに生かすことで、作業としてもミシンやアイロンを使ったり、楽しく意欲的に取り組むことが出来ている。

<令和6年度に向けて>

大麦ご飯の素作業の中でも、姉妹品として考案した「無添加まる麦」「大麦ご飯の素お試しパック」は販路拡大に向けて求めやすいので勧めていきたい。また大麦を使ったコラボレーションなどを考えられるよう、地域商店や企業へ今後も営業をしていきたい。手芸品全般においては、今後もデザインや素材を吟味しながら、より使用感の良い魅力ある製品を提供できるように、日々の試行錯誤の中で楽しみながら制作していきたい。

(文責：山口)

3) 施設外就労〔入浴清掃作業：特別養護老人ホーム ボニジュール根上苑〕

<令和5年度の主な動き>

利用者の工賃と一般就労に向けたスキルを向上させる為、施設外就労への取り組みを行った。今年度も年間を通じて作業にしっかりと利用者が入ることができた。また丁寧な清掃を作業時間内に終えるよう自己点検を行いながら清掃作業に取り組んだ。引き続き COVID-19 の感染対策をしっかりと行い作業に入った。

<令和6年度に向けて>

継続的に利用者が安定して従事し、作業の幅や質向上、従事日数が増えていくよう今後も支援する。また取り組める利用者の方も増やしていきたい。

(文責：山口)

令和 5 年度作業部門別収支内訳書

単位：円

科目名	販売 他	印刷	大麦	ホニョール	前田ケース	その他内職他	合計
収入合計①	412,685	4,324,886	881,636	73,500	13,296	384,798	6,090,801
当期材料	167,550	2,475,908	213,722	0	0	12,124	2,869,304
利用者工賃	247,671	2,032,993	423,240	69,250	20,699	331,397	3,125,250
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0
外注加工費	0	0	0	0	0	0	0
租税公課	6,801	151,550	25,102	1,475	552	4,910	190,390
支出合計②	415,221	4,699,291	636,962	69,250	20,699	343,521	6,184,944
余剰金①-②	△2,536	△374,405	244,674	4,250	△7,403	41,277	△94,143

7. その他

＜令和 5 年度の主な動き＞

- ・地域交流の障がい福祉の理解、啓発の一環としても行っている、イベントや地域販売会への参加も行ってきた。能美市の「ボランティアフェスティバル」「ごちゃまぜ広場」「ぼくらの街フェス」の販売会、関係先企業のイベント参加、新幹線開業のイベントなど、工賃収入のほか社会参加の機会と地域の方とのつながりを実感できる機会となっている。
- ・COVID-19 により行事の企画も難しく控えた方が良いような世の中の流れも引き続きあったが、制限緩和の兆しから、年間通じて、季節感のある行事を取り入れ、外出行事など含め、日々の生活の潤いと親睦を深めた。また S S T（社会生活技能訓練）、グループワークや就労セミナーなど一般就労等に向けた社会性の幅を広げる活動も継続して実施した。

（文責：山口）

8. 令和 6 年度に向けて

基本方針

- ・思いやりの心を第一に利用者に寄り添う専門的なサービスを提供し、利用者から選ばれる事業活動を進めます。
- ・利用者の仲間づくりの場として、お互いに研鑽し成長しあえる活動を進めます。
- ・利用者が地域で偏見や差別なく安心して豊かに暮らしていけるよう、地域共生社会の一役を担えるよう進めます。

重点実施事項

- ① サービスの強みを発信しながら、新たな利用者の受入れと、工賃向上、作業メニューの拡充を進めていきます。
- ② 利用者同士の交流や、抱える地域課題など共有できる場を大切にし、地域福祉活動へも思いを発信できるよう、当事者発表や地域交流活動を担っていきます。
- ③ 障がい者理解促進、社会参加のため、販売会や地域の行事活動に参画し関係作りを育みます。

（文責：山口）

《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》
能美地域活動センターはまかぜ山口分場

1. 事業の概要

今年度も利用者の生活の安定、作業、工賃向上への取り組み、地域行事への参加など、COVID-19 の感染対策をして行う一年ではあったが、5類になったことで各活動のしやすさなども生まれ、少しずつ利用実績や、工賃向上にもつながっていった。また年間を通して安定して作業を提供していくことも出来た4年目だった。

(1) 就労継続支援B型事業

(サービス内容)	心身面で一般就労に困難さを抱える方に、福祉サービスにおける就労・生産活動などの機会の提供と知識・能力の向上、一般就労に向けての必要な支援をする。
(定 員)	20人
(利用料)	〔1割負担額〕1日758円（個人所得によって上限あり）
(利用期間)	なし
(作業内容)	内職業務：梱包作業、箱入作業、部品袋入作業 等 自主製品：デコレーションクリップ、ミニ封筒 等 施設外就労：清掃作業
(その他)	昼食・送迎サービス

2. 事業実績

1) 登録者の推移

(1) 人数

単位：人

利 用 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
就労継続支援（B型）（定員20人）	21	22	22	22	22	23

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	月平均
23	24	24	24	24	23	274	22.8

(2) 市町村登録者数

単位：人

市町村名	能美市	小松市	その他	合 計
延 人 数	175	68	31	274
構成比率	63.9%	24.8%	11.3%	100%

(3) 年代別登録者数（令和6年3月31日現在）

単位：人

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	0	1	4	3	5	1	14
女性	0	2	0	3	2	2	9
計	0	3	4	6	7	3	23

2) 延利用者・利用率の推移

就労継続支援B型事業

開 所 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用人数 (人)	221	224	265	217	206	253
開所日数 (日)	22	22	24	22	22	23
稼働率	50.2%	50.9%	55.2%	49.3%	46.8%	55.0%

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	月平均
268	258	274	255	261	272	2,974	247.8
24	23	24	22	21	21	270	22.5
55.8%	56.1%	57.1%	58.0%	62.1%	64.8%	55.1%	

3) 平均工賃の推移

単位：円

支 給 月	4 月	5 月	6 月	特別賞与	7 月	8 月	9 月
総支給額	220,400	205,800	238,830	452,910	230,690	193,170	217,270
平均工賃	11,600	9,800	11,373	23,837	10,985	9,659	10,346
支給人数	19 人	21 人	21 人	19 人	21 人	20 人	21 人

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年度末賞与	年度平均
282,910	213,340	252,860	193,700	226,850	254,400	900,230	
14,146	10,159	11,494	8,805	10,311	11,565	42,868	16,412
20 人	21 人	22 人	22 人	22 人	22 人	21 人	24.3 人

令和5年度の新規登録者は4人、登録終了者は2人（入院1人、就労継続支援B型1人）であった。見学・体験含め、本人のニーズを丁寧に聞き取りながら、各関係機関と連携し、利用のマッチングに繋がるよう努めた。

(文責：江端)

4) 企業委託作業部門

<令和5年度の主な動き>

◇三和物産㈱

葬儀用品の作業を行う。アメニティセットや箱の組立、セット物の詰め作業、お香の袋詰めやケース詰めなど、多種多様な内職作業を年間通して請け負うことができた。今年度も従来の作業内容に加え、新しく依頼される作業もあり、利用者それぞれの作業の幅を広げるため、取り組んだことのない作業にも挑戦していけるよう利用者と話し合いをしながら進めた。

◇宏文印刷㈱

引き続き、骨上箸や紙祭壇の組立作業を請け負うことができた。作業量も十分頂けて、年間を通して利用者全員が従事できる作業であった。

◇J A小松市

J A小松市より委託を受け、「竹の子ごはんの素」のレトルトパウチ箱詰め作業を行った。また次年度に向けて新たな商品の箱詰め作業の依頼もあり、新規作業に向けての話し合いも行えた。

内職納品数

単位：個

商品名	納品数	
	令和4年度	令和5年度
竹の子ごはんの素	5, 6 6 0	6, 4 7 2

◇コマニー(株)

「S Lーポールウワドメ」、「S Lーポールシタドメ」、「S LーMFカナグ」、「P Lーポールウワドメ」、「P Lーポールシタドメ」5種類の作業を行う。袋詰めした後に箱詰めする作業も引き続き請け負った。今年度は、数を正確に確認しやすくするための道具を工夫し作業を行ってもらったことで、よりミスのない作業となるよう心がけた。

内職納品数

単位：個

金具名	納品数	
	令和4年度	令和5年度
S Lーポールウワドメ	3 4 0	3 4 0
S Lーポールシタドメ	3 6 0	4 0 0
S LーMFカナグ	2, 0 6 4	1, 7 7 6
P Lーポールウワドメ	1, 0 2 0	8 0 0
P Lーポールシタドメ	1, 0 0 0	8 2 0
納品総数	4, 7 8 4	4, 1 3 6

◇(株)ハクサンケミカル

紙管巻生地の外装剥がしを出向いて行い、年間を通して行うことができた。今年度は、使用済み紙管のまとめ作業といった新たな作業も任せていただいた。作業に従事する際のあいさつも定着し、企業の方とのコミュニケーションにも少しずつ慣れてきた。

5) 自主製品、販売部門

<令和5年度の主な動き>

◇デコレーションクリップ・はいからポーチ・はいからポチ袋、肉巻きおにぎり棒販売など、地域のイベント、販売会やこまつ道の駅、能美市社会福祉協議会などに置かせていただき販売した。今年度は、販売会も昨年より多く参加し、利用者が販売会を通じてたくさんの人と関わる機会を作ることができた。また今年度は初めて山口町の文化祭にも出店させていただき、山口分場と利用者のことを知ってもらえる機会となった。

(文責：前出)

<令和6年度に向けて>

引き続き、三和物産(株)、宏文印刷(株)、(株)ハクサンケミカル、J A小松市、コマニー(株)などの各取引先との連携・協力を密にして信頼をもっていただき、事業所としてできることや利用者の強みなどをしっかり伝え、また新しい作業の依頼をしていただけるよう努める。併せて、新しい作業を請け負うことができるよう新規取引先の開拓を行い、チャレンジしてみるものの大切とその利用者のフォロー体制を大事に支援し、利用者の自信と工賃向上を目指して行きたい。

(文責：前出)

6) 施設外就労〔入浴清掃作業：特別養護老人ホーム ポニユール根上苑〕

<令和5年度の主な動き>

利用者の工賃と一般就労等に向けたスキルを向上させるため、引き続き施設外就労への取り組みを行った。丁寧な清掃を作業時間内に終わるよう自己点検を行い、各作業には員が従事できるよう定期的に作業内容を入れ替えながら取り組んだ。作業内容を入れ替えた際には、利用者がお互いに作業について確認し合いながら作業することで自分の作業に自信をもてるよう取り組んだ。

<令和6年度に向けて>

今後も利用者が安定して作業を継続できるよう支援すると共に、取り組む利用者の方も増えるよう取り組んでいきたい。

(文責：前出)

令和5年度作業部門別収支内訳書

単位：円

科目名	販売他	J A	ポニユール	コマニー	ハクサン ケミカル	三和物産	館内清 掃	合計
収入合計①	628,432	96,248	138,000	113,040	973,500	2,294,455	120,000	4,363,675
当期材料	124,357	0	0	0	0	160,146	0	284,503
利用者工賃	47,392	51,670	112,875	68,997	547,000	3,075,356	120,000	4,023,290
外注加工費	0	0	0	0	0	0	0	0
租税公課	2,979	3,304	3,650	3,755	40,325	66,739	3,728	124,480
支出合計②	174,728	54,974	116,525	72,752	587,325	3,302,241	123,728	4,432,273
余剰金①-②	453,704	41,274	21,475	40,288	386,175	△1,007,786	△3,728	△68,598

7) その他

<令和5年度の主な動き>

- ・地域への障害福祉の理解、啓発の一環として前年度にも参加した「ぼくらの街フェス in 能美」やコマニー(株)のコマフェスの催しに参加するなど地域参加と自主製品を販売することが出来た。また山口町内会から誘いを受け、町内防災基礎学習への参加をしたこともきっかけとなり、山口町文化祭に参加することができ、住民の方に事業所を知ってもらえる機会となった。町内のごみ拾いを今年度も行った。
- ・「山口町でできることは山口町でしょう」ということで、物品購入などできる商品については、山口町の商店で購入した。

- ・感染リスクも緩和され、余暇活動も昨年度より多く企画でき、県内のみならず県外への外出の機会など日々の楽しみ、利用者同士の親睦を深める機会ができた。

(文責：江端)

3. 令和6年度に向けて

基本方針

- ・思いやりの心を大切に専門的なサービスを提供し、利用者が安心して、いきがいを持って通える活動を進めます。
- ・利用者同士が一緒に働く仲間として、お互いに認め合い協力し合える事業所（職場）を大切にします。
- ・能美市が取り組む「地域共生社会」の形成に、障がい者福祉の視点から貢献します。

重点実施事項

- ① 利用者同士で、仕事や生活での目標や希望、課題（困りごとなど）を話し合え、お互いに認め合いながら進んでいける機会を設けていきます。
- ② 新規の利用者を増やしていけるよう、事業所についての特色を関係機関に知ってもらえる活動を行います。
- ③ 地域貢献の一環として、地域の行事・活動に参加・協力し、障がい者、事業所を理解してもらえる機会と関係作りに努めます。

(文責：江端)

《共同生活援助事業（介護サービス包括型）》

グループホームなごみ・しらさぎ

1. 事業の概要

- (目 的) 共同生活援助事業は、利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況並びに、その置かれている環境に応じて、共同生活住居において相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行うことを目的としている。

1) グループホームなごみ

- (定 員) 10人
(家 賃) 月額28,000円（但し、電気水道代及び食事代は、自己負担）
※家賃助成制度あり

2) グループホームしらさぎ

- (定 員) 6人
(家 賃) 月額23,000円（但し、電気水道代及び食事代は、自己負担）
※家賃助成制度あり

3) 共通

- (利用料) 区分と所得に応じて各自異なる。
(共益費) 入浴代、共通利用部分電気代等 月額2,000円

- (食 事) 基本的には自炊。(必要に応じて世話人、生活支援員が支援する)
また、希望すれば、月～金の昼食、夕食は、給食サービスが利用できる。
- (洗 濯) 洗濯機1回(30分) 100円、乾燥機1回(60分) 100円
- (駐車場代) 月額1,000円(なごみの郷駐車場利用者、自転車2台目から)

2. 年代別利用者内訳(令和6年3月31日現在) 単位:人

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	0	0	0	1	4	1	4	10
女性	0	0	0	0	1	5	0	6
計	0	0	0	1	5	6	4	16

3. 利用状況

令和5年度 グループホームなごみ・しらさぎの入退去者数 単位:人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
入 居	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
退 居	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
月末利用者数	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16

令和5年度 グループホームなごみ・しらさぎの入居実数 単位:人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
なごみ	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
しらさぎ	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
月末利用者数	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16

グループホームなごみ定員10人、しらさぎ定員6人。令和5年度は6月に1人1ヶ月間、7月に1人3ヶ月間の入院があったが、入退居増減なく、令和6年3月31日現在で16人の入居者となっている。

(文責:瀬戸)

4. 主な日中の生活の場(令和6年3月31日現在)

- ・就労継続支援事業B型 6人
- ・生活介護事業 2人
- ・地域活動支援事業 1人
- ・一般就労 1人
- ・就労継続支援事業B型と地域活動支援事業の併用 2人
- ・該当なし 4人

5. 利用者支援等

1) 行事及び活動

① 地域交流等

- ・5月 北浅井町町内会一斉清掃
- ・10月 なごみ祭
- ・11月 北浅井公民館まつりに行く

② 利用者間交流

- ・平日の午前10時に憩いの間でラジオ体操を行った。部屋にこもりがちな利用者には参加を促し、交流の機会を作った。
- ・平日午後4時頃より、憩いの間で“フレンズの会”と称した自主的な集まりを企画し、歌を歌う、トランプやすごろくをするなどの娯楽を楽しんだ。
- ・GHの入所者有志でなごみ祭に参加し、合唱を披露した。
- ・5月と8月に、餅を焼いて食べる会を開催した。

③ 企画

- ・5年ぶりに入所者の家族懇談会を開催し、7人の家族の参加を得た。
- ・毎月第3水曜・木曜を「特別入浴デーなごみ湯」とし、通常より早い14時から利用可にして毎回違った入浴剤を入れるなど入浴促進を図った。
- ・GHの1年間の活動や様子をまとめた“GH便り”を年度末発行し、家族に配布した。
- ・年2回防災訓練を行った。9月はつばさとGHの合同避難訓練とし、小松市防災センターから講師を招き、避難訓練の立会いとAED及び心肺蘇生法の講話を受けた。3月は地震を想定した避難訓練を行い、利用者自身が『自分の身は自分で守る』という意識を持ってもらうために、日曜夕方の職員不在の時間帯を想定して行った。

2) ミーティング

毎月第1水曜日にグループホームなごみ・しらさぎの合同ミーティングを行い、行事等のお知らせや、共同生活上で起きる様々な問題について話し合いを行った。

月	種別	参加者	内 容
4	定例	14人	GH契約書の更新、職員紹介。COVID-19の感染予防。障害者タクシーチケットの手続きのお知らせ。集団検診の推奨（がん検診、はつらつ健診、歯科検診）。自転車保険・ヘルメット着用の周知。《生活お役立ち情報》ゴミの分別方法について（ペットボトル、空き缶）。（しらさぎ利用者へ）備品代徴収。
5	定例	14人	COVID-19の感染予防。町内一斉清掃、特別入浴企画、GWの予定の周知。《生活お役立ち情報》衣替えについて。R5年度GHのきまりの配布。
6	定例	12人	消防設備点検、居室ワックスがけ大掃除、しらさぎ館大掃除、特別入浴企画の周知。COVID-19の感染予防。浴室椅子の設置。（お願い）浴室の利用方法、憩いの間の新聞について《生活お役立ち情報》熱中症・地震について
	しらさぎ	6人	《話し合い》しらさぎでの生活での困りごとや改善出来たらいい事について。地震の時の行動について
7	定例	13人	電気料金値上げ、地震・水害情報ファイル作成、特別入浴企画の周知。熱中症注意喚起。COVID-19の感染予防。（お願い）紙パック飲料の捨て方、地震の備え。《生活お役立ち情報》食中毒注意喚起〇×クイズ
8	定例	12人	7月分より電気料金値上げ再度周知。なごみ弁当のお盆休み、館内ワックスがけ大掃除、特別入浴企画の周知。COVID-19の感染予防。熱中症注意喚起。（お願い）検診のすすめ。トイレ詰まり予防。ふれあい福祉アート展開催について。（しらさぎ利用者へ）備品代徴収。
9	定例	13人	全体避難訓練（火災）、男女脱衣場ワックスがけ、館内ワックスがけ大掃除、特別入浴企画の告知。COVID-19・インフルエンザの感染予防。しらさぎ非常

			階段工事のお知らせ。(お願い)憩いの間のソファの使用について。ゴミの分別。(その他)なごみ祭りでの歌う仲間募集。 (しらさぎ利用者へ)2階トイレの用具について
10	定例	14人	なごみ弁当・喫茶の価格値上げ、ふれあい福祉フェスティバル開催、特別入浴企画の周知。COVID-19・インフルエンザの感染予防。インフルエンザ予防接種について。《生活お役立ち情報》衣替えの注意点(その他)避難訓練の振り返りアンケート実施。名前の呼び方について。なごみ祭り周知。
11	定例	14人	インフルエンザ予防接種の日程、年末居室すす払い大掃除、特別入浴企画、北浅井公民館祭りの周知。COVID-19・インフルエンザの感染予防。(お願い)憩いの間のソファ使用、道路の横断、ゴミの分別、脱衣場のエアコン、ガスストーブについて《生活お役立ち情報》マスクの効果について《話し合い》お金の貸し借りについて。
12	定例	14人	消防設備点検、年末すす払い大掃除、特別入浴企画、COVID-19・インフルエンザの感染予防、年末年始予定、干支の貼絵作り、北浅井神社へ初詣の周知(お願い)憩いの間のソファ、ホットカーペットの使用について。《生活お役立ち情報》冬の洗濯について(しらさぎ利用者へ)備品代徴収。共有室の使用について。
1	定例	14人	特別入浴企画、COVID-19・インフルエンザの感染予防、GH便り、家族懇談会について。(お願い)憩いの間のソファ、ホットカーペットの使用について。《生活お役立ち情報》災害時について：災害時の情報収集、自分たちができること。
2	定例	14人	特別入浴企画、COVID-19・インフルエンザの感染予防、能美市防災センター見学の募集、防災訓練、家族懇談会、GH便りについて周知。 (お願い)家賃袋廃止。憩いの間のソファ、ホットカーペットについて。マスク着用・検温について。《生活お役立ち情報》NHK 平日「みんなの体操」参加募集。《話し合い》なごみ祭りサブタイトル募集、なごみ祭りで何がしたい？
3	緊急	12人	(お知らせ)GH 玄関故障中。オートロック使用できないと周知。 お知らせ後、実際に GH 玄関を見てもらい通ってもらう。欠席者には口頭で説明または別紙を渡す。
	定例	15人	特別入浴企画、家族懇談会、GH 便り配布の周知。(お願い)服薬確認、お薬の説明書について。家賃袋廃止、職員対応時間、マスク着用・検温について。《生活お役立ち情報》NHK 平日「みんなの体操」参加募集。

(文責：富樫・北島)

3) 個別支援

①日常生活の支援

- ・生活リズムの調整（朝の声かけ、体調確認や日中の過ごし方の確認、等）
- ・買物支援（買い物の見守りや店員とのやり取りの補助、物品選びの相談、等）
- ・金銭管理（福祉サービス利用支援事業の利用、生活費預かり、生活費渡し、金銭の使い方の振り返り、等）
- ・清掃支援（共有スペース、居室の清掃の見守り、ゴミ出しの見守り、等）
- ・清掃確認（居室及び共有スペースの清掃の声掛け、清掃後の確認、等）
- ・清潔保持（入浴や着替え、洗濯、身だしなみ等の促しと声掛け）

- ・銀行同行（ＡＴＭ操作の見守り）
- ②医療に関する支援
 - ・服薬管理（服薬の確認、薬カレンダーセット、等）
 - ・受診同行
- ③個別面接及び相談支援
 - ・個別支援計画面接
 - ・日中の相談支援
 - ・午後８時半まで世話人の配置を行い利用者の服薬管理及び支援や緊急時の対応
- ④家族支援
 - ・家族からの相談対応
- ⑤関係機関との連携
 - ・利用者に関わる機関や行政、及び病院関係者と連携しながらの支援

6. 令和５年度の動向

Covid-19は５月に５類感染症へ移行となったが、引き続き感染対策に気をつけながら日常生活を行った。感染者は出たが、感染が広がることはなかった。

日常生活支援では、リラックス効果や健康面、衛生面への意識付けができればとの思いから「特別入浴デーなごみ湯」を継続し、毎月第３水曜日（男子）、木曜日（女子）に行った。健康面では、体を動かす機会と利用者同士の交流の機会を兼ねて午後２時半頃からネットの動画によるラジオ体操等を行ったが、この時間の開催が難しくなったため午前９：５５からＴＶでのNHKみんなの体操に時間変更した。

地域交流では、北浅井町一斉清掃に参加し地域住民として一緒に取り組んだ。また、北浅井町公民館まつりに職員と希望者で出かけ楽しむことができた。来年度は、公民館まつりにグループホーム利用者の作品を出展させてもらうことを検討している。色々な形で地域の地域の方との交流の機会が増えるよう取り組んでいきたい。

今年１月に能登半島地震があり、これまで以上に災害に対する意識が高まった。年２回の防災訓練に加え、ミーティングで災害時「自分の身は自分で守る」ための対策など話し合ったり考える時間を設け実施した。今後も、危機管理を含め、災害への対応・対策も強化していきたい。

家族との交流に関しては、５年ぶりに開催した家族懇談会に７人のご家族が参加し、情報交換や交流を行う事ができた。家族同士が話し合うことのできる機会を作っていけるよう今後も取り組んでいきたい。また、毎年好評となっている「グループホームなごみ・しらさぎ便り」を今年度も発行し、家族懇談会の議事録を添えてご家族へ発送した。グループホームでの行事や利用者の日常生活等をお知らせする等、情報発信を心がけ家族との繋がりを強くしていくつもりである。

7. 令和６年度に向けて

基本方針

- ・利用者の体調や日常生活を整え、安心した日常生活が送れるよう支援します。
- ・和やかな雰囲気でも話し合えるグループホームを目指します。
- ・利用者が北浅井町の一員として知ってもらえるための働きかけをします。
- ・一人ひとりに合ったサービス提供が行える様に支援の質を高めます。

重点実施事項

- ① 体調や日常生活を整えていけるよう、健康診断の促しや運動を生活に取り入れていきます。

- ② 職員から率先して笑顔であいさつし、日々のさりげない会話・関りを大切にします。
- ③ 地域のイベントの周知・参加等を促します。
- ④ 職員の勉強会を開催します。

(文責：瀬戸・番)

《相談支援事業》

相談支援センターなごみ・相談支援センターはまかぜ

1. 事業の概要

(目的) 障害を持たれた方やそのご家族の、福祉や生活全般に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他の障害福祉サービスの利用支援等、必要な支援を関係機関との連携を取りながら行うとともに、虐待の防止及びその早期発見、その他の障害者等の権利擁護のために必要な援助を行う。

(利用料) 無料

(利用時間) 月曜日～金曜日（土・日・祝日、12/29 ～ 1/3 はお休み）9:00～17:30

2. 事業の実施期間 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

3. 事業内容

- ・基本相談（小松市、能美市、川北町より委託）
福祉サービスに繋がっていない障害のある方、その家族への相談業務と必要な支援を行う。
- ・特定相談支援
福祉サービス利用者に対し、サービス等利用計画の作成を行うとともに、サービス調整やモニタリングの実施などを通し、本人のニーズをもとに必要な応じて支援を行う。
- ・一般相談支援事業（地域移行・地域定着）
精神科病院からの退院支援、施設入所施設からの退所支援、その後の地域生活が定着するよう支援を行う。
- ・障害児相談支援事業
福祉サービス利用者に対し、サービス等利用計画の作成を行うとともに、サービス調整やモニタリングの実施などを通し、ニーズをもとに必要な応じて支援を行う。

4. 事業実績（相談支援センターなごみ）

① 年間利用状況

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談実人数	81	74	79	82	80	81	77	60	82	79	82	76	933
相談件数	186	169	200	189	165	172	183	122	165	164	148	149	2,012
計画相談件数	52	58	56	55	61	65	55	36	59	48	58	56	659

② 年間支援方法

単位：件

訪 問	来所相談	同 行	電話相談	個別支援 会 議	関 係 機 関	その他	合 計
829	196	194	690	61	42	0	1,706

③ サービス等利用計画作成対象者（令和5年3月31日現在）

単位：人

年齢	～10代	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合 計
男性	11	10	8	7	10	20	23	89
女性	8	6	8	9	8	15	15	69
計	19	16	16	16	18	35	38	158

④ 小松市障害支援区分認定調査数

単位：件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
9	2	0	6	3	3	3	3	7	1	6	2	45

<令和5年度の主な動き>

小松市では令和2年6月に地域生活支援拠点等の整備が行われ、相談支援センターなごみを含む市内5か所の相談支援事業所が輪番制で夜間・休日の緊急電話の対応を実施している。また、令和3年度より、小松市で重層的支援体制整備事業がスタートし、11月に“アウトリーチ等を通じた継続的支援事業”の委託契約を市と結締した。

新規相談は昨年同様途切れることなく、精神に障害のある方や児童の相談が特に多かった。児童のケースでは、児童発達支援を希望する場合は利用する事業所が決まった状態で新規相談に来られることが多かったが、放課後等デイサービスを希望する場合は事業所とのやり取りの中、空き状況を見て利用調整を行うことが殆どで希望通りに調整できないこともあった。こども園や学校の中の出来事に関する悩みや、登校拒否、子育てに関する家族の不安等といった課題を抱えるケースも多く、関係機関等との話し合いの場が多く必要であった。成人のケースでは、家計・経済に関する支援を希望する方が多かった。少しでも収入を得たいと福祉的就労を希望する人が多く、収支の把握や適切な金銭の使い方が分からないとの相談から家計改善に同行するケースも多かった。また、グループホームへの入居希望のケースも多くあった。相談支援センターなごみの特徴として、精神に障害を抱えている方の割合が多く、家族や職場の支援等の複雑で関わりが困難なケースは相談支援事業所だけで抱え込まず、地域にある各種機関と積極的につながり協働で支援を行うように動いている。

<行政、他機関との連携>

当事者の支援の中で家族内の課題がみえ、福祉課だけではなく、家族の年齢に合わせて長寿介護課や子育て支援課との連携や、病院や南加賀保健福祉センター等と連携する機会が多くあった。また、地域の民生委員と町内会長との連携の中で、本人の生きづらさや精神疾患についてご理解頂け、「大切な住民、皆で支え合わないといけない」と声を頂いた。

- ・連携支援会議 毎週金曜日 小松市ふれあい福祉課、障がい者相談支援センターと合同でケース報告、情報交換（オンライン開催）
- ・小松市相談支援事業所連絡会 月1回（集合にて）
事例検討会、かかわりの点検会（スーパービジョン）、面接技術、権利擁護等の勉強会

- ・その他ケースにあわせたケア会議の出席や情報共有

<障害者自立支援協議会>

年度目標をたてながら課題整理や年度計画達成に向けた活動を行った。

- ・全体会 年2回 ・運営委員会 年3回
- ・高齢者総合相談センター・相談支援事業所連携会議 年1回
- ・精神障害者等地域生活支援検討部会 年3回
- ・福祉つながりネットワーク ※今年度は開催なし
- ・石川県自立支援協議会ネットワーク会議 年2回

<令和6年度に向けて>

障害を持たれた方やご家族の福祉や生活全般に関する相談に応じ、必要な情報の提供その他の障害福祉サービスの利用支援など、関係機関や地域との連携を取りながら、地域で安心して暮らせる支援体制を構築する。また、地域の方のメンタルヘルスケアのための活動を行う。

重点実施事項

- ① 他市の事例等の情報収集を行い、多様な業種、他機関との話し合いを重ねることで、相談支援と相談システムの充実を図ります。
- ② 自立支援協議会への積極的な参加により、地域課題整理や資源開発に向けた活動を行います。
- ③ 各種研修会や事例検討会などの参加、また個々のケースを通じた連携などにより、専門職としてのスキルアップを図ります。
- ④ 障がいを持たれた方やご家族と一緒に安心して話ができる場所作りを行います。
- ⑤ 地域の方の安心できる居場所作りを行います。

(文責：中西)

5. 事業実績（相談支援センターはまかぜ）

① 年間利用状況

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談実人数	72	84	85	76	77	67	75	82	73	78	75	76	154
相談件数	172	186	171	195	204	180	166	207	205	199	175	175	2247
計画相談件数	44	45	53	44	44	41	45	39	51	42	37	50	535

② 年間支援方法

単位:件

訪問	来所相談	同行	電話相談	個別支援会議	関係機関	その他	合計
915	97	118	937	76	104	0	2,247

③ サービス等計画作成対象者（令和5年3月31日現在）

単位：人

年齢	～10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合 計
男性	11	4	11	9	21	5	61
女性	4	5	6	11	5	9	40
計	4	5	29	42	43	21	101

④ 能美市障害支援区分認定調査数

単位：件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	4	3	5	0	0	1	3	2	0	2	3	36

＜令和5年度の主な動き＞

昨年同様市として、主任相談支援専門員の役割が求められ、アドバイザーとしてのチーム支援会議への参加や、県が主催する研修企画委員などへの依頼も多く、ケース以外での動きも多かった。昨年度末には新しい相談支援事業所が更に1事業所増え、人材育成やフォローアップ体制など、自立支援協議会などの参加を通し、相談支援体制や個別支援から感じられる地域課題などの話し合いを行ってきた。

令和5年度の相談傾向としては、依存症関係の支援が多く、当事者や家族がアルコール依存やギャンブル依存で飲酒やギャンブルを繰り返し、金銭的な困難さがあり、そのことから不安定となり、暴言や暴行、虐待にあたるケースもあり、支援が困難で、関係機関と協議をしながら現在も支援の継続を行っている。また、昨年に引き続き母子保健関係で、母が精神疾患を患い、家事や子育てが難しくなるケースでの、訪問やサービスの調整、関係機関との連携が多くあった。新規の依頼としては、児童のケースも多いが、地域資源としての受け皿がなく、調整に苦慮した。

＜行政、他機関との連携＞

チーム支援会議、地域ケア会議への参加や、困難ケース、複合的課題を抱える世帯の他機関連携が多くあった。要保護児童対策協議会が動いているケースもあり、児童相談所や健康推進課、子育て支援課との連携も多かった。依存症関連の支援に対しては、南加賀保健福祉センターや病院との連携も不可欠であった。

＜障害者自立支援協議会＞

委託事業所として、コア会議、運営会議、全体会に参加。通所事業所連絡会の事務局機能も担っている。分野別連絡会として、相談支援事業所連絡会、こども連絡会、事業所連絡会（通所系、訪問系）があり、各連絡会で地域課題等を出し合い、課題に対してどのように取り組んでいくか等協議を行っている。事業所連絡会通所系では、主に障がい者の理解促進と就労環境の課題について話し合いを進め、インスタグラムを立ち上げ普及啓発を行っているほか、商工会青年部と連携することで障害のある方の就労について知ってもらう機会となるよう取り組みも行っている。訪問系では、訪問系従事者のスキルアップのため、今年度は高齢や障害のある複合的な世帯の支援について好事例の紹介を行い、意見交換する研修会を行っている。子ども連絡会では、医療的ケアを必要とする児童に関してや、放課後等デイサービスの不足についてなどのそれぞれ地域課題を出し合い、協議されていた。各連絡会であがった地域課題は、運営会議にて報告され検討課題の整理等を行っている。

＜令和6年度に向けて＞

基本方針

南加賀圏域の各市町行政、社会福祉協議会、医療機関、福祉サービス事業所などと連携をとり、障がいのある方の安心で豊かな生活の支えとなることや、高齢化や親亡き後を見据えた柔軟で切れ目のないサポート体制などを関係機関等と協働しながら、社会福祉の課題に取り組み、地域福祉の向上を目指します。

重点実施事項

- ① 地域、行政、関係機関などと、連携の中で役割を補完し合いながら障がいのある方へのサポートを行い、地域で安心して生活できるよう相談支援体制などの検討を行う。
- ② 自立支援協議会や地域関係団体協議会、事例検討会等への参加を通して、地域社会資源の開発、人材育成に役立てることが出来るよう専門職として力を発揮し、活動します。
- ③ 家族全体がニーズを抱えているケースが増え、多様な連携やきめ細やかな関りが求められるので、長期的な視点で家族全体を関係者で支え一緒に考え一緒に次のステップへ進んでいけるよう支援に努めます。

(文責：堂前)

《生活介護事業、地域活動支援事業》

地域活動センターくろゆり

1. 事業の概要

1) 生活介護事業

- (目 的) 日常生活をより豊かにするため、創作活動、余暇活動、生産活動の機会を提供し、必要に応じて、食事や入浴、服薬、排泄等の介助等支援を提供する。それぞれの希望をもとに個別支援計画を作成し、創意工夫をし、個別に支援を提供することを目的とする。
- (定 員) 20人
- (利用料) 1日 障害程度区分及び、利用時間により
〔1割負担額〕218円～1,353円の範囲
(個人所得によって上限あり)
- (利用期間) なし
- (利用区分) 区分3以上、50歳以上の方については区分2以上

2) 地域活動支援センターくろゆり（小松市、能美市、加賀市、川北町委託事業）

- (目 的) 創作活動、余暇活動、生産活動などを通じ、各個人がそれぞれの生活を豊かにし、生きがいや夢を持って生活できるように創意工夫し支援を提供する。また、「気軽に立ち寄れる居場所」としての機能を重視することを目的とする。
- (定 員) 10人
- (利用料) 〔1割負担額〕3時間以下 218円 3時間を超えて4時間以下273円 4時間を超えて5時間以下 327円 5時間を超えて6時間以下 381円 6時間を超えた場合 435円
- (利用期間) なし

(利用区分) なし

サービス内容

- ・創作活動：アート、調理、野菜作り、習字 等
- ・余暇利用：買い物、ゲーム、ドライブ、散歩、おしゃべり、ハンドベル 等
- ・生産活動：ねじの袋詰め、ハーネス袋詰め、館内消毒作業 等
- ・健康維持：体操、各種運動、脳トレ 等
- ・季節行事：初詣、花見、忘年会、年度末会、小旅行 等
- ・各種相談：生活相談、金銭相談、制度相談、医療相談・同行 等
- ・地域活動：フードパントリー、町内ごみ拾い
- ・その他：送迎サービス、昼食サービス、訪問、居場所機能（オフクロ）

2. 事業利用状況

(1) 登録者の状況

①月別、事業利用別登録者数の動向

単位：人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
生活介護	20	19	19	20	18	19	18	18	18	18	18	18	18.6
地域活動	38	41	41	43	43	42	43	46	47	46	45	45	43.3
合 計	58	60	60	63	61	61	61	64	65	64	63	63	57

② 市町別登録者数 (令和6年3月31日現在)

単位：人

項 目	小松市	能美市	加賀市	川北町	合 計
生活介護	14	4	0	0	18
地域活動	31	12	2	0	45
合 計	45	16	2	0	63

③ 年代別登録者数 (令和6年3月31日現在)

単位：人

年 齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合 計
男 性	2	2	4	6	12	4	2	32
女 性	0	2	4	8	7	9	1	29
合 計	2	4	8	14	19	13	3	63

④ 障害種別登録者数 (令和6年3月31日現在) 単位:人

障害名	統合	気分	発達	身体	知的	その他
男性	7	12	7	1	7	1
女性	14	7	4	1	2	0
合計	21	19	11	2	9	1

令和5年度は、17名の見学と12名の体験があった。新規利用者は、地域活動支援センター事業からの生活介護移行が3名、地域活動支援センターは居場所を求める声も多く12名あった。また終了者は、生活介護から施設入所へ2名、B型就労事業所2名移行している。

(2) 利用人数の状況 単位:人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	22	23	24	22	25	22
生活介護利用者数	167	153	152	143	144	144
地域活動利用者数	180	200	197	182	191	180
利用者数計	347	353	349	325	335	324
一日の平均利用者数	15.8	15.2	14.5	14.7	13.4	14.5

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
24	22	23	20	22	22	271
190	181	187	160	147	167	1,936
191	168	190	139	125	149	2,092
381	349	377	299	272	316	4,028
15.8	15.9	16.3	15.0	12.4	14.4	14.8

全体の延べ利用者数は、昨年度より約200人増えている。生活介護では、入院する利用者が多かったことや、B型就労事業所へ移った利用者がおり稼働率は下がったが、地域活動支援センターは、昨年に引き続き増加している。傾向としては、就労をしながら地域活動支援センターの併用を希望する方が増えた。センター事業の特色や役割を果たせるようになりつつあるのではないかと感じている。また発達障害のある方の利用も増えており、支援の関わり方や事業所内での他の利用者との関係性づくりなど、関わりに苦慮することもあったことから職員のスキルアップや事業所内の環境調整への意識を高めなければいけないと感じた。

(文責:松本)

3. 事業活動内容

COVID-19 が5類となったことで、大勢での会食以外は、ほぼ通常通りの活動が行えるようになった。色々な面で制限があって内々になっていた雰囲気ではあったが、福井方面への小旅行企画や、なごみ祭で利用者の皆さんが日頃行っている早口言葉を、来場者に披露したりと、各活動企画に自発的な意見や行動が多くでるようになってきた。

買い物に同行する支援以外にも、週1回近隣スーパーまで送迎だけをするという活動行い始め、地域で1人暮らしに奮闘する利用者の支えに繋がっている。また、第3土曜日の開所日利用は、平日はくろゆりを利用できない利用者が集う日として定着してきたり、麻雀を介しての交流から利用につながっている方や、麻雀同好会も発足し仲間との居場所となっている。

令和3年5月から第1日曜日に開所している、地域貢献活動のフードパントリー活動は、地域の方に認知していただけるようになり、毎回60組以上の方にお越しいただけ、利用者も積極的にフードロス食材の配布に参加し活動を行っている。月1回の町内のゴミ拾い活動も継続できた。

(文責：松本)

<令和6年度に向けて>

これまでのくろゆり事業活動が評価され、隣接する土地に地域活動支援センター新建屋を建設することとなり、センター事業の強化と、地域の課題でもあるひきこもり支援や大人の発達障害支援にも力をいれ役割を担っていく。また、そのためにも、新たな支援の幅に対応できるよう、職員全員で学びを深め、支援体制を構築していきたい。

今後も個々の利用者、地域のニーズをくみ取りながら創意工夫で、利用者の地域での暮らしの一役を支えていきたい。

(文責：松本)

4. 令和6年度に向けて

基本方針

- ・体調や生活リズムを整え、安心して希望ある生活を送れるよう支援すると共に、「地域共生社会」の一端を担う事業所として地域交流・貢献に努める。

重点実施事項

- ① 精神障がい者等の地域の居場所、相談機能の充実のため、新建屋（令和7年1月竣工）の活用により建更なる居心地の良い空間づくりと、多様な生きづらさを抱える方々の地域の相談の場として推進していく。
- ② 地域住民と協働するなど、利用者の社会参加を進めながら地域貢献を行い地域共生社会を育んでいく。
- ③ 地域に情報を効果的に発信し、障がいなどの理解啓発を推進していく。

(文責：松本)

《生活困窮者就労準備支援事業》 のみワークポートりんく

1. 事業の概要

のみワークポートりんくは、生活困窮者自立支援制度における就労準備支援事業を能美市から委託を受け、令和4年7月から本格的に事業を開始した。事業は、一般就

労に向けた準備としての基礎能力の形成の支援を、生活・社会・就労自立支援で計画的かつ一貫して実施する。対象者は、働くうえで複合的な生活課題を抱えており、生活習慣の形成から、他者との関わりに不安を抱えるコミュニケーション能力の形成を含め、自尊感情や自己有用感を喪失している方も多い。そのため、直ちに就職ありきではなく、その方の生きづらさは何かを考え、生活全般を支える視点で関わり、信頼関係をつくっていくことが大事となっている。また事業の目的や地域の支えが、生活に困窮している方々のセーフティーネットであるという側面を、就労支援を通して地域に認知していただく活動も求められている。

令和5年7月からは、生活に困窮しがちな方やひきこもりがちな方の地域の居場所として「Port」も開設。地域社会の中で、安心して出かけられ受け入れられ、その人らしく過ごせる「場」となり、また、改まって相談機関に出向くよりも気軽に、生活や仕事、日ごろの困りごと等を相談しやすい「場」として開設している。

1) 就労準備支援事業（りんく）

(支援内容)	生活習慣形成のための指導・訓練（生活自立支援）、就労の前段階として必要な社会的能力の習得（社会自立支援）、事業所での就労体験の場の提供や、一般雇用への就職活動に向けた技法や知識の取得等の支援（就労自立支援）の3段階で支援。そのほか、就職後のフォローアップや地域への事業啓発、及び生活困窮者を支える地域のネットワークづくり 等
(対象者)	能美市在住 〔15歳以上、65歳未満で障がいをお持ちではない方〕
(定 員)	5名程〔1日〕
(利用料)	なし
(利用期間)	原則1年
(開所日)	月～金曜日 9時～15時
(その他)	送迎サービスあり

2) ひきこもり支援ステーション事業（居場所Port）

(支援内容)	気の向くままに立ち寄り、自由な空間でゆっくり過ごすことができ、生活相談等にも対応する。（スタッフ常駐） テレビや新聞、パソコン、カードゲーム、学習教材、Switch等をそろえ、季節の行事等のプチイベントも開催し、仲間と無理なく触れ合って楽しい時間を共有したり、自分らしく役割を果たすことのできる機会や環境を創出する。また、情報発信を行う等、安心して過ごせるサードプレイスとして地域におけるネットワークづくりの一端を担う。
(対象者)	能美市在住 〔15歳以上65歳未満で障がいをお持ちではない方〕
(定 員)	原則なし
(利用料)	なし
(利用期間)	定めなし
(開所日)	毎週金、土曜日 9時～16時
(その他)	送迎サービスなし〔イベント時は送迎サービスあり〕

2 事業実績

就労準備支援事業（りんく）

①登録者の推移人数

単位：人

利 用 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
就労準備支援事業	9	8	8	8	10	11

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	月平均
12	12	12	13	13	14	10.8	12

②年代別者数（令和 6 年 3 月 31 日現在）

単位：人

年齢	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代～	計
男性	0	0	1	4	4	2	11
女性	0	1	1	1	0	0	3
計	0	1	2	5	4	2	14

③延利用者・利用率の推移

単位：人

開 所 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
延べ人数（人）	21	24	32	26	29	37
開所日数（日）	20	21	23	25	24	25
1 日の平均利用者数	1.1	1.1	1.5	1.0	1.2	1.5

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	月平均
44	49	54	46	46	55	463	38.6
24	25	24	23	23	25	282	23.5
1.8	2.0	2.3	2.0	2.0	2.2	1.7	

④就職者数

単位：人

	困窮	生保	社会参加	合計
就職に繋がった者の人数	2	1	1	4
（うち障がい者雇用）	0	0	1	1
（うち一般就労）	2	1	0	3
（うち福祉就労〔就労継続支援等〕）	0	0	0	0

ひきこもり支援ステーション事業（居場所 Port）

利用者の推移人数〔R5.7月～〕

単位：人

開 所 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
居場所の利用者（延べ）	—	—	—	10	10	10
居場所の利用者（実）	—	—	—	5	6	6
家族会参加者	—	—	—	—	—	4
当事者会参加者	—	—	—	—	—	—
当事者・家族・地域向け企画参加者	—	—	23	—	—	—

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
14	13	20	15	17	19	128
9	7	9	8	10	9	
0	0	0	0	0	0	4
—	—	—	—	—	—	0
—	—	—	—	—	—	23

＜令和5年度の主な動き＞

令和5年度の新規登録者は7人、登録終了者は1人、一般就職者は4人であった。まだ事業の地域への浸透や事業が及ぼす効果は限定的ではあるが、窓口となる能美市、能美市社会福祉協議会自立相談機関、アウトリーチ支援事業所と連携し、各担当課主催の支援会議でのケース検討などを定期的に有し課題を共有し進められてきたことは大きい。支援では、焦らず寄り添い、当事者と課題を一緒に進めることで、必ず変化が見られることを実感する。そのためにはやはりオーダーメイドプランで、伴走支援が重要と振り返る。登録件数も徐々に増えており、社会参加を行う地域との繋がり、地域で支える環境がますます必要となり、中間的就労や、他者と協働し役割を持てるボランティア活動などの資源の場の開拓が求められる年度となった。

また、居場所 Port 開設は1年目であったが、その目的から、徐々に日々の潤いを求める利用者の利用が感じられ、自宅以外の場所、同じ境遇の仲間意識、何気ない日々の相談ごとや会話、皆で行なうイベントの楽しみが、地域社会や人との緩やかな繋がりを生み、就労意欲へのステップを踏んでいける価値が見え始めてきたと感じる。

（文責：高田）

3. 令和6年度に向けて

基本方針

自己有用感や意欲の向上を得られる関わりに努め、生活習慣改善や社会参加能力の向上により、就労に従事する能力を身につけられるよう支援する。また、ひきこもりや8050といった状況にいる方には、生活支援や他者との交流活動、併せて家族等への支援を含めた、関係づくりを重視した支援に努める。

重点実施事項

- ① アセスメントにより状況と課題を丁寧に把握し、セミオーダーメイドで有効なプログラムを展開する。
- ② 社会参加の足掛かりとして、自宅から離れ気軽に過ごせたり自己有用感を感じらる居場所機能の充実。
- ③ 自立相談支援や地域包括体制関係、障がい相談支援事業者など、重層体制関係者と連

携を密にする。

- ④ 地域の働く担い手となるため、地域企業や個人事業主など就労環境の開拓、連携に努める。
- ⑤ 生活困窮者やひきこもりの方の地域理解を推進するため、事業や現状の取り組み等の、発信に努める。

(文責：高田)

《地域交流推進事業》

1 地域交流センター及び地域交流室の活用

青葉会、くろゆり会、メンボラ ToMo の会の活動の拠点として各種行事や会議等で利用されている。今年度は関連職種の方々ととの会議や支援者会議としての活用が増え、法人関連団体外の利用も COVID - 19 以前に戻ってきた。

令和 5 年度地域交流センター及び地域交流室利用の推移

団体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
青葉会と利用者	2	2	3	3	2	0	3	3	2	1	4	5	30
	8	13	9	11	6	0	8	62	14	5	25	31	192
くろゆり会	0	1	2	3	1	4	1	0	0	1	2	2	17
	0	5	3	7	1	9	1	0	0	1	6	5	38
メンボラ TOMO の会	6	3	5	7	4	8	7	3	4	7	12	10	76
	36	25	39	39	33	49	47	11	38	40	91	64	512
その他	5	10	17	8	9	10	8	7	7	2	8	10	101
	23	47	64	29	43	47	42	52	35	17	46	59	504
計	13	16	27	21	16	22	19	13	13	11	26	27	224
	67	90	115	86	83	105	98	125	87	63	168	159	1246

上段回数：行事及び会議の回数

下段：行事及び会議の参加者数

2 その他の地域福祉関係者の活動内容

SUGAR JAPAN はピアカウンセリングを行うグループで、生活のことや仕事のこと、病気、薬、老後のことなど幅広くみんなで話し合っている。参加メンバーには、当事者の方を中心に、大学教員、福祉施設の職員、病院のナースに作業療法士、ボランティアの方と幅広く参加している。当法人職員も平成 25 年から参加し、地域活動センターしらさぎにて 2 ヶ月毎に集まっていたが、COVID-19 の影響で昨年引き続き、令和 5 年度も開催しなかった。

(文責：金谷)

3 ボランティアに関すること

以下、なごみの郷利用者を対象とした諸活動について、令和5年度メンボラ ToMo の会事業報告書から抜粋

<コロナ禍でのなごみの郷利用者との関り>

内 容	参加者
なごみの郷の4つの事業所で利用者の皆さんと一緒に、夏と春に咲く花を植えた。 6月14日 なごみの郷、くろゆり、はまかぜ、山口分場 10月21日 なごみの郷、くろゆり 10月28日 はまかぜ、山口分場	TOMOの会 32名
くろゆりフードパントリー（5～3月） 12月までは昼食を一緒に作って食べていたが、1月より食事は辞退した。	TOMOの会 23名
干支の型抜きアート作り 12月12日 1回目13:30 2回目14:30 なごみの郷で2班に分けて人数を最小限にして実施した。	TOMOの会 18名
干支の型抜きアート作り 12月16日 くろゆりで実施した。	TOMOの会 3名
くろゆりウォーキング（8, 9, 10, 12, 1月） イオンモールや木場潟などを利用者と共にウォーキングした。	TOMOの会 8名

<訪問活動>

訪問日	訪問先	内 容	参加利用者数
11月15日	くろゆり	アレンジフラワー	11人
12月13日	はまかぜ	紙芝居、楽器演奏	13人
2月21日	山口分場	紙芝居、合唱	8人
3月27日	なごみ	紙芝居、クイズ、しりとり、歌等	5人

その他、5月および11月には、各事業所（なごみ、くろゆり、はまかぜ、山口分場）において、季節の花苗を利用者と共に植える活動を行った。

<ふれあい交流活動>

- ・味噌づくり・味噌開き：3年ぶりに2月に味噌づくりを利用者と共に行った。その後9月に味噌開きをし、各事業所の利用者に味噌（50個）を分けた。
- ・干支の型抜きアート作り：なごみとくろゆりにおいて、12月に行った。
- ・ほっとサロン：下記に示すような楽しい交流を、毎月（土曜日）行った。

実施日	内 容	参加利用者数
4月15日	3年ぶりに再開、昔話、食事づくりのことなど雑談	4人
5月20日	お互いの自己紹介、合唱、趣味や祭りなど雑談	10人
6月17日	仕事、戦争、世界情勢、料理など多様な雑談	4人
7月15日	子ども時代、体操、自転車など雑談	3人

8月19日	自身の体験、なごみのグループホームなど雑談	3人
9月16日	初参加の利用者の自己紹介、クイズ、歌など	4人
10月21日	ボランティアのハーモニカ演奏で歌の会など	5人
11月18日	利用者の描いた絵、手作りの作品の披露など	6人
12月16日	趣味やスポーツ、歌などの雑談、歌など	5人
1月20日	お菓子など雑談	5人
2月17日	参加した利用者の自分話など	5人
3月16日	北陸新幹線敦賀延伸、幼少時、宗教など雑談	5人

<くろゆり支援活動>

・くろゆりが行っているフードパントリー活動（毎月第一日曜日）への支援を、年間を通して継続的に行った。利用者と共に、袋詰め作業等を行った。

第 22 回なごみ祭

令和 5 年度のなごみ祭は、前年度に引き続き 10 月開催ではあったが、マスク着用など感染対策を施しながら、時間、規模ともコロナ禍以前に戻して行うことができた。令和 4 年度はテイクアウトのみとしたが、今年度は会場での飲食が解禁となり、みんなで食べて飲んで遊ぶことの楽しさを、祭に参加してくださった方々と改めて共有できたように感じた。メンボラ ToMo の会、くろゆり会、青葉会をはじめ、地域の方々と一緒に祭を作る日が戻ってきたことを心から嬉しく思う。

アトラクションは外部からゲストを呼ばず、利用者有志のみなさんでのステージを行った。また、懐かしの歌謡曲で炭坑節を踊る“盆ダンス”は、祭の締めくくりとして、会場の一体感を生むことができ、楽しかったという声が多く聞かれた。

COVID-19 が 5 類になったこともあり、初めて宮橋小松市長にご挨拶をお願いしたところ、ご来場いただくことが叶った。障がいを持たれた方が、なごみの郷で元気に頑張っているところを、知っていただけて良かった。

(文責：松本)



第 22 回なごみ祭の様子

Ⅲ 令和５年度の決算状況

1 資金収支計算書

第一号第一様式（第十七条第四項関係）

法人単位資金収支計算書

（自）令和5年4月1日 （至）令和6年3月31日

（単位：円）

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	就労支援事業収入	16,600,000	18,266,088	△ 1,666,088	
	障害福祉サービス等事業収入	171,361,000	169,710,057	1,650,943	
	経常経費寄附金収入	2,100,000	2,050,000	50,000	
	受取利息配当金収入	1,000	763	237	
	その他の収入	725,000	693,454	31,546	
	事業活動収入計（１）	190,787,000	190,720,362	66,638	
	支出				
	人件費支出	116,530,000	113,331,228	3,198,772	
	事業費支出	15,194,000	13,285,247	1,908,753	
施設整備等による収支	事務費支出	28,608,000	25,896,946	2,711,054	
	就労支援事業支出	16,600,000	18,367,853	△ 1,767,853	
	支払利息支出		0	0	
	事業活動支出計（２）	176,932,000	170,881,274	6,050,726	
	事業活動資金収支差額（３）＝（１）－（２）	13,855,000	19,839,088	△ 5,984,088	
	収入				
	施設整備等補助金収入		0	0	
	社会福祉連携推進業務設備資金借入金収入		0	0	
	固定資産売却収入		0	0	
	その他の施設整備等による収入	60,000	0	60,000	
	施設整備等収入計（４）	60,000	0	60,000	
その他の活動による収支	支出				
	設備資金借入金元金償還支出	3,400,000	3,400,000	0	
	固定資産取得支出	1,000,000	990,840	9,160	
	固定資産除却・廃棄支出		0	0	
	その他の施設整備等による支出		0	0	
	施設整備等支出計（５）	4,400,000	4,390,840	9,160	
	施設整備等資金収支差額（６）＝（４）－（５）	△ 4,340,000	△ 4,390,840	50,840	
	収入				
	その他の活動による収入		0	0	
	その他の活動収入計（７）	0	0	0	
その他の活動による収支	支出				
	積立資産支出		0	0	
	その他の活動による支出	60,000	0	60,000	
	その他の活動支出計（８）	60,000	0	60,000	
	その他の活動資金収支差額（９）＝（７）－（８）	△ 60,000	0	△ 60,000	
	予備費支出（１０）			0	
	当期資金収支差額合計（１１）＝（３）＋（６）＋（９）－（１０）	9,455,000	15,448,248	△ 5,993,248	
	前期末支払資金残高（１２）	84,394,623	84,394,623	0	
	当期末支払資金残高（１１）＋（１２）	93,849,623	99,842,871	△ 5,993,248	

2 事業活動計算書

第二号第一様式（第二十三条第四項関係） 法人単位事業活動計算書

（自）令和5年4月1日 （至）令和6年3月31日

（単位：円）

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	就労支援事業収益	18,266,088	18,237,409	28,679
	障害福祉サービス等事業収益	169,710,057	169,581,420	128,637
	経常経費寄附金収益	2,050,000	150,000	1,900,000
	サービス活動収益計（１）	190,026,145	187,968,829	2,057,316
	費用			
	人件費	113,627,942	113,784,772	△ 156,830
	事業費	13,285,247	13,286,951	△ 1,704
	事務費	25,896,946	25,930,801	△ 33,855
	就労支援事業費用	18,316,939	16,735,561	1,581,378
	減価償却費	10,056,421	10,976,831	△ 920,410
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 2,541,249	△ 3,219,818	678,569
	貸倒損失額	0	0	0
	貸倒引当金繰入	0	0	0
	サービス活動費用計（２）	178,642,246	177,495,098	1,147,148
サービス活動増減差額（３）＝（１）－（２）		11,383,899	10,473,731	910,168
サービス活動外増減の部	収益			
	受取利息配当金収益	763	613	150
	その他のサービス活動外収益	693,454	1,105,291	△ 411,837
	サービス活動外収益計（４）	694,217	1,105,904	△ 411,687
	費用			
	支払利息	0	0	0
サービス活動外増減の部	サービス活動外費用計（５）	0	0	0
	サービス活動外増減差額（６）＝（４）－（５）	694,217	1,105,904	△ 411,687
経常増減差額（７）＝（３）＋（６）		12,078,116	11,579,635	498,481
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	0	0	0
	固定資産売却益	0	323,249	△ 323,249
	その他の特別収益	0	0	0
	特別収益計（８）	0	323,249	△ 323,249
	費用			
	固定資産売却損・処分損	2	0	2
	国庫補助金等特別積立金積立額	0	0	0
	その他の特別損失	0	0	0
	特別費用計（９）	2	0	2
	特別増減差額（１０）＝（８）－（９）	△ 2	323,249	△ 323,251
当期活動増減差額（１１）＝（７）＋（１０）		12,078,114	11,902,884	175,230
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額（１２）	113,456,838	101,999,606	11,457,232
	当期末繰越活動増減差額（１３）＝（１１）＋（１２）	125,534,952	113,902,490	11,632,462
	基本金取崩額（１４）	0	0	0
	その他の積立金取崩額（１５）	0	0	0
	その他の積立金積立額（１６）	0	445,652	△ 445,652
	次期繰越活動増減差額（１７）＝（１３）＋（１４）＋（１５）－（１６）	125,534,952	113,456,838	12,078,114

3 貸借対照表

第三号第一様式（第二十七条第四項関係）

法人単位貸借対照表

令和6年3月31日現在

(単位：円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	105,666,304	88,622,615	17,043,689	流動負債	12,589,560	10,748,319	1,841,241
現金預金	71,179,543	54,359,614	16,819,929	事業未払金	4,115,770	3,529,844	585,926
事業未収金	30,999,253	31,717,875	△ 718,622	1年以内返済予定設備資金借入金	3,400,000	3,400,000	0
未収補助金	1,135,998	979,458	156,540	預り金	303,702	275,475	28,227
商品・製品	85,040	50,165	34,875	職員預り金	880,374		880,374
仕掛品	27,654	48,050	△ 20,396	仮受金	50,000		50,000
原材料	360,893	324,458	36,435	賞与引当金	3,839,714	3,543,000	296,714
立替金			0	その他の流動負債			0
前払金	748,500		748,500				
前払費用	1,127,050	1,142,995	△ 15,945				
仮払金	2,373		2,373				
固定資産	55,436,223	64,501,806	△ 9,065,583	固定負債	2,636,000	6,036,000	△ 3,400,000
基本財産	22,801,279	27,429,055	△ 4,627,776	設備資金借入金	1,800,000	5,200,000	△ 3,400,000
土地			0	長期預り金	836,000	836,000	0
建物	21,801,279	26,429,055	△ 4,627,776	負債の部合計	15,225,560	16,784,319	△ 1,558,759
定期預金	1,000,000	1,000,000	0	純資産の部			
その他の固定資産	32,634,944	37,072,751	△ 4,437,807	基本金	11,546,875	11,546,875	0
土地	8,798,375	8,798,375	0	国庫補助金等特別積立金	3,247,439	5,788,688	△ 2,541,249
建物	12,905,081	15,871,457	△ 2,966,376	その他の積立金	5,547,701	5,547,701	0
構築物	1,073,009	1,349,199	△ 276,190	修繕積立金	5,547,701	5,547,701	0
機械及び装置	1,211,498	1,898,964	△ 687,466				0
車両運搬具	1,891,393	2,034,942	△ 143,549	次期繰越活動増減差額	125,534,952	113,456,838	12,078,114
器具及び備品	957,587	1,295,413	△ 337,826	(うち当期活動増減差額)	12,078,114	11,902,884	175,230
権利	164,500	164,500	0				
ソフトウェア	85,800	112,200	△ 26,400				
修繕積立資産	5,547,701	5,547,701	0				
その他の固定資産			0	純資産の部合計	145,876,967	136,340,102	9,536,865
資産の部合計	161,102,527	153,124,421	7,978,106	負債及び純資産の部合計	161,102,527	153,124,421	7,978,106

IV 各種委員会報告

1 職場内研修委員会

法人内開催研修

月	日	対象	研修名
5	15	新人職員	新人職員研修
9	7	新人研修	新人職員研修
11	26	全職員	法人全体研修 事業所発表
11	27	新人研修	新人職員研修
2	20	全職員	テーマ別研修

法人では、利用者の尊厳・自立に向けた支援の考え方を習得し、福祉の専門性に基づいたサービス提供及び社会人・組織人としての業務遂行能力の向上の為、OJT や OFF-JT により体系的に育成研修を進めている。今年度は新任者の方が配属されてから迅速に研修が行えるように、新人研修の開催を随時行った。また、今までは座学のみであったが、配属された部署以外の職員と顔の見える関係性を作っていけるように、各事業所体験も行った。法人全体研修では、「山口分場」と「りんく」の事業所紹介や課題などを発表してもらい、グループワークを通して様々な考え方に触れ、自分の思いを話す機会を設けた。令和4年度に引き続き、2月には事例を通したテーマ別研修を行った。日頃の関わり中で抱えている悩みなどを語り合い、翌日からの支援に生かしていけるよう、部署や役職の垣根を越えて話し合える場を作るという目的で実施した。令和6年度は、研修の場面だけで終わるのではなく、日々行う自らの支援に生かしてもらい、その結果どうだったか、次に生かすにはどうするか、という振り返りの過程も大切に、研修を行っていききたい。

(文責：海老原)

2 虐待防止等委員会

なごみの郷職員として権利擁護等の意識を高め、虐待防止や身体拘束等適正化につなげていくことを目的に、年3回委員会を開催し防止に向けた取り組みを今年度も実施した。委員会や虐待マネージャーを中心に、各職員に通報の流れや仕組みの認識、現場の現状の把握、虐待防止等に向けた早期発見と迅速な対応を共有した。また年度末には、県の虐待防止研修の復命研修を法人内で実施し、虐待を起こさない職員としての責務や虐待を起こさないためにどのような取り組みが必要かを学び、意見交換し意識を高めた。

(文責：山口)

3 学生実習

(令和5年度公立小松大学実習概要)

公立小松大学の精神保健看護実習の受け入れを令和5年度も行った。Covid-19の感染対策を行いながらも、大学側による「対象者を全人的に理解するために、病気や障害に由来する否定的なイメージや偏見をもたずに、人権や権利を尊重した倫理的な態度で対象者と接する能力を養う。さらに、精神に障がいを持ちながら生活する人々の心身の痛みに共感できる感性を養う」という目的に沿いながら、就労支援センターつばさ、

及び能美地域活動センターはまかぜ山口分場の2事業所において臨地実習を行った。月曜日・火曜日と実習をし、水曜日に大学で振り返りを行いそこでの反省などを生かして、木曜日に再び実習を行うという方法であった。このような方法により、月曜日・火曜日に利用者と関わりの少なかった学生や思うような関りができなかった学生も木曜日には「障がい者をもっと知ろう。関わろう。」という姿勢をみることができた。最終的には、地域住民として生活する当事者への理解を深める実習になったと考える。なお、体調不良により実習期間中に実習を行うことができなかった学生がいたが、学校からの要請により過日追加実習することを受け入れた。来年度も精神に障がいのある方への理解を深めて頂ける実習になるように創意工夫をしていきたい。

(文責:江端)

4 コマニー(株)新入社員研修

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が5類になったことを受け、4年にコマニー新入職員の受け入れを行いました。「自ら考えて行動できる力をつけること、ボランティアを通して社会に貢献できることがあることに気づき、今後に活かしていくこと」を目的に、8名の新入社員がなごみの郷の各事業所で研修を行いました。今回は6/15(木)～19(月)と6/20(火)～22(木)の平日3日間ずつを前半4名、後半4名小松チームと能美チームに分けて行いました。新入職員はチームでスローガンを掲げ、利用者との関りや事業所内でのボランティアなど一生懸命に取り組んでくださいました。研修で得た学びや気づきが今後の仕事や生活に活かしていただけるとよいと思います。なごみの郷としても外部の方との関りを持つことができることは、利用者・職員にとってもよい刺激となるため、これからもこのような機会を通して地域貢献に役立っていかれたらと思います。

(文責:瀬戸)

V その他

1 研修・各種団体会議への出席(令和5年4月～令和6年3月)

月	日	研修・会議名	主 催	出席数
6	10	相談支援 いま・むかし～各世代の思い出あれこれ～	石川県相談支援専門員協会	2
	21. 27	令和5年度精神保健福祉担当者研修会	石川県こころの健康センター	1
	24	「この子、他の子と違うのかな…」と感じる子に関する困りごとをどうしていますか?	発達支援センターえぶりい	3
	6/26～9/11	令和5年度対人援助技術講座 (ZOOM 配信研修 合計6日間)	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
7	7/3. 10. 8/17. 9/19	令和5年度相談支援従事者現任研修(オンライン、面談 合計4日間)	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
	11	令和5年度 依存症(薬物)地域生活支援指導者養成講座	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター	1
	11. 19	令和5年度石川県強度行動障害支援者養成研修(ZOOM 配信研修・集合研修)	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1

8	24	令和 5 年度石川県サービス管理責任者等更新研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	2
	30	令和 5 年度第 1 回災害派遣福祉チーム員フォローアップ研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
9	5. 6	令和 5 年度石川県強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
	9/8. 12/15	令和 5 年度就業支援基礎研修	石川県障害者職業センター	1
	9/20. 11/10. 12/5. 12/15. 2/9	アルコール依存教室 アルコールや薬物、ギャンブル等でお困りのことはありますか？	石川県こころの健康センター	6
10	10/16. 11/2. 11/6	令和 5 年度ひきこもり相談・支援者研修会	石川県こころの健康センター	5
	19	食品衛生責任者研修会	小松能美食品衛生協会	2
	27. 28	令和 5 年度石川県医療的ケア児等、支援者養成研修（ZOOMによるオンライン研修）	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
11	16	令和 5 年度依存症地域生活支援指導者（ギャンブル）研修（ZOOMオンライン）	依存症対策全国センター（久里浜医療センター）	1
	11/27 12/7. 12/8	令和 5 年度石川県障害者虐待防止・権利擁護研修（オンデマンド配信）（集合研修）	石川県	1
12	3	高次脳機能障害の生きづらさを考える	石川県リハビリテーションセンター	2
	11	令和 5 年度南加賀管内特定施設等調理従事者研修会（オンライン）	石川県南加賀保健福祉センター	1
1	19	令和 5 年度石川D P A T緊急訓練	石川県こころの健康センター	1
3	9	公開講演会「読み書き障害を持つ人たちの生きづらさとは」～学齢期から社会参加までの理解と支援～	石川県発達障害者支援センター	1
	11. 12	令和 5 年度石川県サービス管理責任者等実践研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会	1
	14. 15	能登半島地震被災地支援	石川県相談支援専門員協会	1

2 関連団体への参加

令和 6 年 4 月 1 日現在

氏 名	関係団体	職名
北岡理事長	石川県社会福祉法人経営者協議会	委 員
	小松市自立支援協議会	委 員
高田支援部長	のみ社会福祉法人連絡会	副会長
	小松市社会福祉協議会	評議員
	第 4 次能美市地域福祉活動計画評価委員会	委 員
	能美市ボランティアコミュニティ活動支援センター運営委員会	委 員
	のみ社会福祉法人連絡会 ・研修専門委員会	幹 事 委 員

瀬戸支援部次長	小松市くらし安心ネットワーク協議会 ・いのちと心の部会	委 員
堂前支援部次長	能美市障害者自立支援協議会 ・コア会議 ・運営委員会 ・相談支援事業所連絡会 ・事業所連絡会通所系 相談支援専門員協会 研修企画 相談支援従事者研修現任者研修 メモリーケアネットワーク 石川県災害福祉派遣チーム	委 員 委 員 委 員 事務局 企画委員 企画委員 委 員 会 員
中村支援部次長	小松市障害者自立支援協議会 就労連絡会	委 員
金谷 葉月	石川県精神保健福祉士会教育研修委員 サービス管理責任者等養成研修企画委員 能美市自立支援協議会 ・事業所連絡会通所系 ・相談事業所連絡会	委 員 ファシリテーター 委 員 事務局 委 員
番 千恵子	小松市障害者自立支援協議会 生活支援系連絡会	委 員
江端 安代	南加賀就労支援強化連絡会 クローバー制作委員会	委 員
南出 真里江	能美市障害者自立支援協議会 事業所連絡会通所系	委 員
山崎 菊代	南加賀就労支援強化連絡会 ネットワーク委員会	委 員
中西 雅恵	小松市障害者自立支援協議会 ・運営委員会 ・相談支援事業所連絡会 ・精神障がい者等地域生活支援検討部会 ・医療的ケア児等コーディネーター連絡会	委 員 委 員 委 員 委 員
土山 信英	小松市障害者自立支援協議会 ・相談支援事業所連絡会 ・医療的ケア児等コーディネーター連絡会	委 員 委 員
西本 美由紀	小松市障害者自立支援協議会 ・相談支援事業所連絡会 ・医療的ケア児等コーディネーター連絡会	委 員 委 員
松本 里絵	・夢や運営委員会 ・小松市障害者自立支援協議会 生活支援連絡会	委 員 委 員
山田 紗貴	のみ社会福祉法人連絡会 ・ふれあい弁当にかかる専門委員会	委 員

3 なごみの郷苦情解決第三者委員

令和5年度活動報告

月	訪問先	訪問内容	相談形式と人数		苦情 BOX・電話	計人数
4	なごみ	通常訪問	個別相談	5		5
5	くろゆり	通常訪問	グループ相談	9		9
6	はまかぜ	通常訪（コマニー研修）	グループ相談	8		8
7	山口分場	通常訪問	グループ相談	2		2
8	なごみ	通常訪問	個別相談	3		3
9	くろゆり	通常訪問	グループ相談	6	(大学に電話)	7
10	はまかぜ	通常訪問	グループ相談	7		7
11	山口分場	通常訪問	グループ相談	3		3
12	なごみ	通常訪問	個別相談	5	(スタッフ相談)	6
1	くろゆり	通常訪問	グループ相談	7		7
2	はまかぜ	通常訪問	グループ相談	4		4
3	山口分場	通常訪問	グループ相談	3		3
				62	2	計64

<今年度の活動と次年度の展望>

- ・平成17年（2005）以降、今年度で19年目の活動となった。
- ・苦情解決第三者委員である井村千里、北岡和代の2名で活動を行った。
- ・山口分場、はまかぜ、なごみ、くろゆりへの定期訪問を行った。
山口分場とはまかぜは希望者のみが集まってのグループ相談、くろゆりはプログラムに組み込まれた活動、なごみはメンバーによる任意に応じる形式で行った。くろゆりとはまかぜでの活動が活発であった。
- ・COVID-19による影響はほぼなく、年間を通して通常訪問ができた。
- ・2022年度から苦情・相談BOXは事業所管理へと移行し、必要に応じて報告を受け相談（1件）にのった。
- ・次年度は北岡和代から相上律子（公立小松大学保健医療学部）へと交代する。井村千里は継続となる。

（文責：苦情解決第三者委員 北岡）